

令和5年度 介護環境科教育課程(1年生)

実務経験のある教員等による授業科目一覧表

	開設科目	授形態	時間数
教養科目	ホームルーム活動Ⅰ	演習	60
	ホームルーム活動Ⅱ	演習	60
	情報技術	演習	30
	自然と環境	演習	30
	障害者とスポーツⅠ	演習	30
	障害者とスポーツⅡ	演習	30
	国家試験対策Ⅰ	講義	30
	国家試験対策Ⅱ	講義	30
	国家試験対策Ⅲ	講義	30
	文章表現	演習	30
	アクティビティ・ケアⅠ	演習	30
	アクティビティ・ケアⅡ	演習	30
	人間と社会	人間の尊厳と自立	講義
人間関係とコミュニケーションⅠ		講義・演習	30
人間関係とコミュニケーションⅡ		講義・演習	30
社会の理解Ⅰ		講義	30
社会の理解Ⅱ		講義	30
生活と音楽		講義	30
児童福祉論		講義	30
地域福祉論		講義	30
視覚障害者・聴覚障害者の支援		演習	30
介護福祉論Ⅰ		講義	60
介護	介護福祉論Ⅱ	演習	30
	介護福祉専門職論	講義	60
	リスクマネジメント論	講義	30
	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	30
	コミュニケーション技術Ⅱ	演習	30
	生活支援技術Ⅰ-①	演習	30
	生活支援技術Ⅰ-②	演習	30
	生活支援技術Ⅰ-③	演習	30
	生活支援技術Ⅱ-①	演習	90
	生活支援技術Ⅱ-②	演習	60
	生活支援技術Ⅲ	演習	30
	認知症の人の支援	演習	30
	介護過程Ⅰ	演習	90
	介護過程Ⅱ	演習	30
	介護過程Ⅲ	演習	30
	介護実習指導Ⅰ	演習	90
	介護実習指導Ⅱ	演習	30
	介護実習Ⅰ	実習	250
	介護実習Ⅱ	実習	200
	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	講義
発達と老化の理解Ⅱ		講義	30
認知症の理解Ⅰ		講義	30
認知症の理解Ⅱ		講義	30
障害の理解Ⅰ		講義・演習	30
障害の理解Ⅱ		講義・演習	30
こころとからだのしくみⅠ		講義・演習	60
こころとからだのしくみⅡ-①	講義・演習	30	
こころとからだのしくみⅡ-②	講義・演習	30	
医療的ケア	医療的ケア	講義	50
	医療的ケア演習	演習	
実務経験のある教員等による授業時数合計			770

令和5年度 介護環境科教育課程(2年生)

実務経験のある教員等による授業科目一覧表

	開設科目	授形態	時間数
教養科目	ホームルーム活動Ⅰ	演習	60
	ホームルーム活動Ⅱ	演習	60
	情報技術	演習	30
	自然と環境	演習	30
	障害者とスポーツⅠ	演習	30
	障害者とスポーツⅡ	演習	30
	国家試験対策Ⅰ	講義	30
	国家試験対策Ⅱ	講義	30
	国家試験対策Ⅲ	講義	30
	文章表現	演習	30
	アクティビティ・ケアⅠ	演習	30
	アクティビティ・ケアⅡ	演習	30
	人間と社会	人間の尊厳と自立	講義
人間関係とコミュニケーションⅠ		講義・演習	30
人間関係とコミュニケーションⅡ		講義・演習	30
社会の理解Ⅰ		講義	30
社会の理解Ⅱ		講義	30
生活と音楽		講義	30
児童福祉論		講義	30
地域福祉論		講義	30
視覚障害者・聴覚障害者の支援		演習	30
介護福祉論Ⅰ		講義	60
介護	介護福祉論Ⅱ	演習	30
	介護福祉専門職論	講義	60
	リスクマネジメント論	講義	30
	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	30
	コミュニケーション技術Ⅱ	演習	30
	生活支援技術Ⅰ-①	演習	30
	生活支援技術Ⅰ-②	演習	30
	生活支援技術Ⅰ-③	演習	30
	生活支援技術Ⅱ-①	演習	90
	生活支援技術Ⅱ-②	演習	60
	生活支援技術Ⅲ	演習	30
	認知症の人の支援	演習	30
	介護過程Ⅰ	演習	90
	介護過程Ⅱ	演習	30
	介護過程Ⅲ	演習	30
	介護実習指導Ⅰ	演習	90
	介護実習指導Ⅱ	演習	30
	介護実習Ⅰ	実習	250
	介護実習Ⅱ	実習	200
	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	講義
発達と老化の理解Ⅱ		講義	30
認知症の理解Ⅰ		講義	30
認知症の理解Ⅱ		講義	30
障害の理解Ⅰ		講義・演習	30
障害の理解Ⅱ		講義・演習	30
こころとからだのしくみⅠ		講義・演習	60
こころとからだのしくみⅡ-①	講義・演習	30	
こころとからだのしくみⅡ-②	講義・演習	30	
医療的ケア	医療的ケア	講義	50
	医療的ケア演習	演習	
実務経験のある教員等による授業時数合計			510

※ 青字・ゴシック体・網掛けの授業科目は、今年度開講する講義。

※ 時間数欄で、黄色網掛けの授業科目は、今年度開講する講義のうち実務経験のある教員等によるもの。

## ■ 成績評価について

成績は、科目の内容によりますが、筆記試験、実技試験、レポート、受講態度（学修意欲）、出席状況等を総合して100点満点で評価し、60点以上を合格として単位を認定しています。

評定と点数の関係は下記のとおりです。

秀	90点以上
優	80点以上90点未満
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満

なお、各科目の評価の合計点の平均（100点満点）を算出し、成績の分布状況を把握しています。

## ■ 卒業認定について

卒業に必要な単位数等の規定は、学則第11条に示されています。

卒業認定は、科目ごとの評価一覧表に基づき、「卒業・進級判定会議」において、各科目の単位の認定状況を確認し、協議の上、判定しています。

翌年度の認定の方針等については、年度末に職員会議等で協議の上、策定しています。

# 介護環境科 1 年

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
ホームルーム活動 I	演習	2	通年	長谷 由香
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集団での関りの中で、個々が社会人として必要な素養を習得する。</li> <li>2. チームワークの大切さを学び、チームマネジメントできる能力を養う。</li> <li>3. コミュニケーション能力の向上を図り、信頼関係の構築について学ぶ。</li> <li>4. 異なる価値観の存在を受け止め、エンパワメントを重視した関わりについて実践し学ぶ。</li> </ol>			
授業の概要	<p>介護福祉士には、コミュニケーションスキルの向上、多職種協働によるチームケアにおけるリーダーシップを発揮するための実践力の向上、また、介護に関する知識・技術を習得し、個々の利用者に柔軟に対応する能力の向上が求められています。</p> <p>当科目では、自然体験を通じたレクリエーションや学校行事などの場において、それぞれが主体的に考え行動する中で、お互いの価値観の違いを感じながら、チームワークの土台となる、コミュニケーション能力の向上を目指していく。また、介護福祉士の役割において重要な『人間理解』について必要なスキルとは何かを考え、深める機会となることを目指す。</p>			
授業計画	<p style="text-align: center;">学習内容・テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・教務ガイダンスの実施</li> <li>・クラス活動（クラスレクリエーション）の計画打ち合わせ及び実施</li> <li>・学生会行事、学校行事への参加および実施</li> </ul>			
評価方法	授業態度、協調性、積極性等を重要視し、総合的に判断する。			
テキスト				
参考文献				
留意事項				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
情報技術		演習	1	前期	大坪 千草
授業の目標	インターネットの普及により、会社はもちろん病院・学校・公共機関においてパソコン・タブレット・スマートフォン等との連携は必要不可欠なものとなり、同時に利用者のパソコンスキルもより高度なものが必要とされています。保育や福祉の現場においても例外ではありません。本講義（演習）では、インターネット・各デバイス・Office アプリケーションについての基本的な知識、技術を身につけ、更に、その正しい取扱い方について学んで行くことを目的とします。				
授業の概要	①パソコンの基礎 ②インターネット（接続デバイス）・メール ③Word ④Excel ⑤PowerPoint				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	受講生のスキル（能力）を把握するアンケート。パソコンのガイダンス（入門的説明）			
	2	インターネットの仕組み・セキュリティの必要性・インターネットのルール			
	3	個人メールの作成と送受信、又はHP/SNS/BLOGの違いを理解する			
	4	Word（文書作成）の基礎1（文字入力・文字装飾）			
	5	Word（文書作成）の基礎2（行と段落・ファンクションキー・ショートカットキー）			
	6	Word（文書作成）の基礎3（表作成・図の挿入）			
	7	Word（文書作成）の基礎4（業務文書の作成）			
	8	Excel（表計算）の基礎1（オートフィル・フィルタ・ソート）			
	9	Excel（表計算）の基礎2（数式・関数）			
	10	Excel（表計算）の基礎3（数式・関数・グラフ）			
	11	Excel（表計算）の基礎4（業務出勤表の作成）			
	12	PowerPoint（プレゼンテーション）の基礎1（各自のテーマ）			
	13	PowerPoint（プレゼンテーション）の作成（各自のテーマ）			
	14	PowerPoint（プレゼンテーション）の作成（各自のテーマ）			
15	PowerPoint（プレゼンテーション）個人発表				
評価方法	受講態度・課題の提出・最終発表（PowerPoint）				
テキスト					
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
自然と環境		演習	1	前期	大西 英一 長谷 由香
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の中でさまざまな体験を通して命の大切さについて学ぶ。加えて、介護福祉士に必要な感性を養い、同時に環境とは何かを学ぶ</li> <li>・グループ活動を通して主体性やチームワークの大切さを学ぶ</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の中で動植物などに触れ合う活動をし、命について考える機会をもち、自然を通じ他者と触れ合う中で感性を育て、自己を表現する場を持つことを目指す。</li> <li>・介護福祉士が習得すべき「環境（自然、人的、物的等）」とは何かを考えるための視点について様々な地域の自然環境や生活する人々に触れ体験することで視野を広げ、柔軟な思考が身につくことを目的とする。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		内容	
	1	特色ある釧路の自然【座学】			
	2	校外研修（釧路市立博物館）		校外	
	3	春採湖と武佐の森【座学】			
	4	校外研修 巡検①（武佐の森）		校外	
	5	校外研修 巡検②（春採湖）		校外	
	6	校外研修（和商市場）釧路の水産物とその利用		校外	
	7	釧路湿原国立公園【座学】			
	8	校外研修 （野生動物保護センター・温根内湿原センター）		校外	
	9				
	10	阿寒摩周国立公園と国定公園【座学】			
	11	校外研修 ビオトープの森と森の活用		校外	
	12	釧路の湿原と石炭【座学】			
	13	カヌーオリエンテーション			
	14	校外学習 釧路川カヌー体験		校外	
15					
評価方法		受講態度、レポート課題			
テキスト		プリント資料配布			
参考文献					
留意事項		校外学習時は、事故や怪我のないよう留意する。			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
障害者とスポーツ I		演習	1	前期	山本 悟 高瀬 勝洋
授業の目標	<p>障がい者スポーツのいくつかの種目をモデル的に学習しながら、最適化した学びを提供するための方法ならびに理論を学習し、障がい者スポーツを提供するための基礎を学習する。 障がいのある人が、スポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫の仕方や、指導員としての留意点。接し方について実技を通して学ぶ。(高瀬)</p>				
授業の概要	<p>障害者とスポーツの関係をみつめ、実施者の感覚に立脚した動きの指導法について学習する。そこでは、障害者スポーツ指導教本に基づきながら、理論的な学習を進めるとともに、実技実習を通して、障害者スポーツの指導に関わる、基礎能力を育成する。 集中講義：障がいの分類とスポーツ・指導者の種類と役割〈講義〉 各パラスポーツ〈実技〉(高瀬)</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション／障がい者スポーツとは			
	2	準備運動の方法			
	3	動きづくりの運動			
	4	障害の分類とスポーツ (集中)			
	5	指導者の種類と役割 (集中)			
	6	各パラスポーツ：実技 (集中)			
	7	各パラスポーツ：実技 (集中)			
	8	からだづくりの運動①			
	9	からだづくりの運動②			
	10	障がい者スポーツにおけるネット型ゲームの工夫①			
	11	障がい者スポーツにおけるネット型ゲームの工夫②			
	12	障がい者スポーツにおけるネット型ゲームの工夫③			
	13	障がい者スポーツにおけるベースボール型ゲームの工夫①			
	14	障がい者スポーツにおけるベースボール型ゲームの工夫②			
15	まとめ				
評価方法	出席状況、授業での活動状況、レポートにより総合的に評価する。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献	日本障害者スポーツ協会 (2012) 障害者スポーツ指導教本 初級・中級〈改訂版〉ぎょうせい：東京。植木ら (2017) アダプテッド・スポーツ概論 東京教学社 東京				
留意事項	実技実習を行うゆえ運動に適した最適な服装で出席すること。 受講者の状況によって内容の順番をかえたり、アレンジをしたりする。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
国家試験対策 I		講義	2	後期	金子 一也 酒井 賢一 匹田 美紀子
授業の目標	<p>急速な高齢化と世帯構造の変化や、推計を超えた認知症高齢者の増加等、社会的な介護ニーズの増大に介護福祉士の存在とその実践が更に求められる。</p> <p>介護福祉士を取得することを目標とした各学生の目標達成と、この時代の要請に応える介護の専門職である介護福祉士を1人でも多く輩出することを目標とする。</p>				
授業の概要	<p>介護福祉士の専門性と実践の根拠として必要な社会と制度のしくみを日々の講義で学ぶことを前提として、その学びを介護福祉士国家試験の合格に結びつけるための受験対策の授業とする。</p> <p>具体的にはこれまでの国家試験の出題傾向や今後の社会福祉におけるニーズを見据えながら、ポイントを押さえて、介護福祉士国家資格の取得に結びつくための授業とする。</p> <p>国家試験の受験対策としての基礎的な内容とする。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション・生活支援技術① (匹田)			
	2	生活支援技術② (匹田)			
	3	生活支援技術③ (匹田)			
	4	生活支援技術④ (匹田)			
	5	生活支援技術⑤ (匹田)			
	6	社会の理解① (酒井)			
	7	社会の理解② (酒井)			
	8	社会の理解③ (酒井)			
	9	社会の理解④ (酒井)			
	10	社会の理解⑤ (酒井)			
	11	障害の理解① (金子)			
	12	障害の理解② (金子)			
	13	障害の理解③ (金子)			
	14	障害の理解④ (金子)			
15	障害の理解⑤ (金子)				
評価方法	過去問題及び模擬問題による目標の達成度、習熟度を評価する。				
テキスト	介護福祉士国試ナビ2024、プリント 最新・介護福祉士養成講座 (第2版) 2 社会の理解				
参考文献	社会福祉士国試ナビ2024、介護福祉士過去問題集・介護福祉士模擬問題集他				
留意事項	提出物は、期限を厳守してください。 ノート・プリント・配布資料は終講まで保管し、毎講持参してください。				

※実務経験のある教員

- 金子 (社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士/障がい者支援施設勤務)
- 酒井 (社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員/老人福祉施設勤務)
- 匹田 (介護福祉士/老人福祉施設勤務経験)



科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
文章表現		演習	1	後期	横内 俊郎
授業の目標	1. 文章を書くための基本的な決まりや約束事について理解することができる。(知識・理解) 2. 読み手の気持ちを意識しながら、正しく読みやすい文章を書くことができる。(技能・表現) 3. 書くことに興味をもち、意欲的に文章を書くことができる。(関心・態度)				
授業の概要	本講では、受講者それぞれの経験や能力をふまえ、書き手の意図が正確に読み手に伝わる文章がいかにあるべきかについて、実践的な学習を展開する。特に、受講者個々の疑問や意見・要望等を大切にしながら、知識や理解の習得に偏ることのない学習を進めたい。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 授業の進め方			
	2	実作 (自己紹介) 構成と推敲の重要性①			
	3	実作文の交流 各自の課題とその対策			
	4	感想文作成のポイント 実作			
	5	構成と推敲の重要性② 今後の展望			
	6	意見文作成のポイント① 実作			
	7	実作文の交流 相互批正 推敲			
	8	受講者各人の努力目標の設定と対策			
	9	意見文作成のポイント② 実作			
	10	実作文の交流 相互批正 推敲			
	11	介護実習報告書の書き方			
	12	実作 (実習等で学んだこと)			
	13	実作文の推敲 相互批正 推敲			
	14	実作文の清書 ミニ文集の作製			
15	学習のまとめ (反省と今後の展望)				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実作 (技能・表現)</li> <li>・日常の学習状況 (主体的な態度、向上心)</li> </ul>				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講で使用する資料、印刷物等は、すべて担当者が準備する</li> </ul>				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度作成された 本校介護実習報告集</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の実態に即して学習内容を変更することがある。</li> <li>・課題 (宿題) を課すこともある。</li> <li>・ノートPC、文書作成機 (ワープロ等) の所有者は、受講時に持参してほしい。</li> </ul>				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
アクティビティ・ケア I		演習	1	後期	桂 裕二 豊島 節子 佐藤 瑠美子
授業の目標	高齢者のQOL（生活の質・人生の質）を高め、ADL（日常生活動作）を維持することは、人生のフィナーレを輝かせるために大切なものです。特に介護予防や、要介護の高齢者、障がい者に人生を楽しんでいただくためには、身体の栄養だけではなく心の栄養も必要なのです（「高齢者の楽々アクティビティ・ケアの進め方」より）。そのための様々な活動をコミュニケーションスキルと計画に基づいて実践する「アクティビティ・ケア」について理解する。				
授業の概要	アクティビティ・ケアの様々な実践例から、アクティビティ・ケアの実際を学ぶ。その一つ一つのアクティビティが、どうプランニングされケアに結びつくのかを理解できるよう、できるだけ実践例を取り上げて、学生一人一人が自ら取組み、体験し、実践につなげられるようにする。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	トイ理論	16		
	2	トイ実践参加	17		
	3	絵本紙芝居	18		
	4	アンデルセン手芸①	19		
	5	アンデルセン手芸②	20		
	6	アンデルセン手芸③	21		
	7	毛糸①	22		
	8	毛糸②	23		
	9	華道①	24		
	10	華道②	25		
	11	華道③	26		
	12	華道④	27		
	13	ステンシル①	28		
	14	ステンシル②	29		
15	まとめ（レポート）	30			
評価方法	受講態度、取り組み姿勢、レポート、発表を総合的に評価する				
テキスト	高齢者の楽々アクティビティ・ケアの進め方				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
人間の尊厳と自立		講義	2	前期	佐々木 幸子
授業の目標	介護の知識や技術等の専門性を高めることは介護福祉士として、重要不可欠なものである。この科目では全人的な人間の理解と、人と人が共に尊厳を認め合う大切さを理解し、対象者の自立(自律)した生活への支援、権利擁護を基本とした支援を実践できる専門職としての土台作りとする。				
授業の概要	人はどのような状態にあっても、他者の尊厳を認め合うことを理解する。福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通して人間の尊厳、人権尊重及び権利擁護の考えを学ぶ。本人主体の観点から自立の考え方や自立生活の理解を通して、その生活を支える必要性を理解する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション	16	まとめ	
	2	人間の尊厳と利用者主体①	17		
	3	人間の尊厳と利用者主体②	18		
	4	社会福祉領域での人権と福祉理念の変遷①	19		
	5	社会福祉領域での人権と福祉理念の変遷②	20		
	6	社会福祉領域での人権と福祉理念の変遷③	21		
	7	社会福祉領域での人権と福祉理念の変遷④	22		
	8	人権尊重と権利擁護①	23		
	9	人権尊重と権利擁護②	24		
	10	自立の概念と多様性	25		
	11	介護における自己決定と自立支援①	26		
	12	介護における自己決定と自立支援②	27		
	13	尊厳の保持と自立	28		
	14	介護における自立支援の実践	29		
15	筆記試験	30			
評価方法	出席数、受講態度、提出物、筆記試験等を総合的に評価				
テキスト	最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 中央法規出版				
参考文献	随時提示				
留意事項					

※実務経験のある教員(介護福祉士、社会福祉主事/老人福祉施設勤務)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
人間関係とコミュニケーション I		講義・演習	2	後期	佐々木 幸子
授業の目標	福祉の仕事は自分と対象者との信頼関係によって成立する。その対象者となる利用者との関係づくりはコミュニケーションから始まる。また対人援助を行う組織運営が円滑にいくためにコミュニケーションは重要である。 そのためにコミュニケーションについての基礎的な知識を深め理解し個別、及びチームでの具体的なコミュニケーション能力を身につける。				
授業の概要	コミュニケーションはその人の状態や環境によって違いがあることを理解する。 自己覚知の重要性を学び、受容すること、傾聴すること、共感することができるように演習等を取り入れる				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション	16	まとめ	
	2	人間の誕生と介護	17		
	3	自分と他者の理解	18		
	4	発達心理学からみた人間関係	19		
	5	社会心理学からみた人間関係	20		
	6	人間関係とストレス	21		
	7	コミュニケーションの概念	22		
	8	コミュニケーションの基本構造と手段	23		
	9	コミュニケーション技法と実践①	24		
	10	コミュニケーション技法と実践②	25		
	11	対人援助関係とコミュニケーション	26		
	12	援助的人間関係の形成	27		
	13	組織におけるコミュニケーション	28		
	14	組織において求められるコミュニケーションの実践	29		
15	筆記試験	30			
評価方法	出席数、受講態度、提出物、筆記試験等を総合的に評価				
テキスト	最新 介護福祉士養成講座 (第2版) 1 人間の理解 中央法規出版				
参考文献	随時提示				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会の理解 I		講義	2	前期	酒井 賢一
授業の目標	急速な少子高齢化による社会の変化と多様な社会的ニーズに、介護福祉士が専門性で応じ使命を果たしていくことが重要である。そのためにも、人の生活が地域や社会にどのような意味を持ち、人が生きて生活する権利が行使できるための必要な社会保障とその諸制度を理解して介護を実践することができる介護福祉士の養成を目的とする。(社会の理解IIと共通)				
授業の概要	社会の中に存在する「人と生活」を基本として、家族、地域社会、社会組織を学びの中から理解し介護実践に結びつける。そのために社会保障制度の全般を学び、更には社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生等、具体的な諸制度のあり方と仕組みや介護保険制度等を学ぶ。また介護実践にかかわる権利擁護の諸制度、保健医療や医療にかかわる法律、生活保護制度など生活を支える諸制度を学び、社会保障全般を理解した介護・支援の実践力を高める。(社会の理解IIと共通)				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション・科目のねらいと概要 生活と社会のしくみ① (基本機能)		16	
	2	" ② (家族の機能と役割)		17	
	3	" ③ (社会・組織・地域)		18	
	4	" ④ (地域社会における生活支援)		19	
	5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策		20	
	6	" (地域包括ケア)		21	
	7	社会保障制度① (基本的な考え方)		22	
	8	社会保障制度② (制度の発達)		23	
	9	社会保障制度③ (制度のしくみ)		24	
	10	社会保障制度④ (現代社会と社会保障)		25	
	11	高齢者保健福祉と介護保険制度① (動向)		26	
	12	高齢者保健福祉と介護保険制度② (法体系)		27	
	13	介護保険制度① (創設の背景と目的)		28	
	14	介護保険制度② (しくみの基本的理解)		29	
15	前期の学習内容のふりかえり・試験		30		
評価方法	テストによる評価と授業への向き合い方を総合的に評価する。				
テキスト	最新・介護福祉士養成講座 社会の理解 2 第2版				
参考文献	介護福祉士国試ナビ				
留意事項	テストは上記以外の回で実施する。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
社会の理解Ⅱ		講義	2	後期	酒井 賢一
授業の目標	急速な少子高齢化による社会の変化と多様な社会的ニーズに、介護福祉士が専門性で応じ使命を果たしていくことが重要である。そのためにも、人の生活が地域や社会にどのような意味を持ち、人が生きて生活する権利が行使できるための必要な社会保障とその諸制度を理解して介護を実践することができる介護福祉士の養成を目的とする。(社会の理解Ⅰと共通)				
授業の概要	社会の中に存在する「人と生活」を基本として、家族、地域社会、社会組織を学びの中から理解し介護実践に結びつける。そのために社会保障制度の全般を学び、更には社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生等、具体的な諸制度のあり方と仕組みや介護保険制度等を学ぶ。また介護実践にかかわる権利擁護の諸制度、保健医療や医療にかかわる法律、生活保護制度など生活を支える諸制度を学び、社会保障全般を理解した介護・支援の実践力を高める。(社会の理解Ⅰと共通)				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	介護保険制度① (基本的理解)		16	
	2	介護保険制度② (基本的理解)		17	
	3	介護保険制度③ (基本的理解)		18	
	4	介護保険制度④ (基本的理解)		19	
	5	介護保険制度⑤ (基本的理解)		20	
	6	介護保険制度⑥ (組織、団体の役割)		21	
	7	介護保険制度⑦ (組織、団体の役割)		22	
	8	介護保険制度⑧ (介護支援専門員の役割)		23	
	9	介護保険制度⑨ (介護保険制度の動向)		24	
	10	介護実践に関する諸制度① (個人の権利)		25	
	11	介護実践に関する諸制度② (個人の権利)		26	
	12	介護実践に関する諸制度③ (保健・医療)		27	
	13	介護実践に関する諸制度③ (貧困・生活困窮)		28	
	14	介護実践に関する諸制度④ (就労・雇用)		29	
	15	社会保障制度のふりかえり・試験		30	
評価方法	テストによる評価と授業への向き合い方を総合的に評価する。				
テキスト	最新・介護福祉士養成講座 社会の理解 2 第2版				
参考文献	介護福祉士国試ナビ				
留意事項	テストは上記以外の回で実施する。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活と音楽		演習	2	前期	川崎 晶子
授業の目標	高齢者や障害者と音楽の関わりを理解して、今後に活かせるようにする。より多くのジャンルの歌の勉強をして、介護の現場で実践できるようにする。人間が一生の間に関わって触れる音楽について理解する。				
授業の概要	演習を通して、より多くのジャンルの歌を覚え、歌唱能力を身につける。 授業で学んだ内容を活かした音楽レクリエーションを展開する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	歌集作り			
	2	歌唱演習 流行歌			
	3	歌唱演習 流行歌			
	4	歌唱演習 童謡唱歌			
	5	歌唱演習 童謡唱歌			
	6	手づくり楽器 器楽演奏			
	7	音楽に合わせた体操			
	8	音楽レクリエーションを展開するためには			
	9	模擬体験準備			
	10	模擬体験発表 音楽レク展開			
	11	歌唱演習 流行歌			
	12	歌唱演習 童謡唱歌			
	13	民謡 音と絵のコラボ			
	14	模擬体験準備			
15	模擬体験発表 音楽レク展開				
評価方法		授業の参加状況			
テキスト					
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護福祉論 I		講義	4	通年	匹田 美紀子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な経緯から、介護とは何かを理解する。</li> <li>・生活を支援する専門職としての役割や専門性を理解する。</li> <li>・一人ひとりの生活に違いがあることを理解する。</li> <li>・介護職が行う生活支援の意義を理解する。</li> <li>・ICFの考え方、基本的特徴を理解する。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義による知識の習得を中心に、事例や演習を交えて考える力・感じる力を養う。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション・介護福祉を取り巻く状況①	17	自立支援と介護予防①	
	2	介護福祉を取り巻く状況②	18	自立支援と介護予防②	
	3	介護福祉を取り巻く状況③	19	私たちの生活の理解	
	4	介護福祉の歴史①	20	介護福祉を必要とする人たちの暮らし①	
	5	介護福祉の歴史②	21	介護福祉を必要とする人たちの暮らし②	
	6	介護福祉の歴史③	22	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	
	7	介護福祉の歴史④	23	生活のしづらさの理解とその支援	
	8	介護福祉の基本理念	24	健康管理の意義と目的①	
	9	介護福祉における自立支援①	25	健康管理の意義と目的②	
	10	介護福祉における自立支援②	26	こころの健康管理①	
	11	ICFの考え方①	27	こころの健康管理②	
	12	ICFの考え方②	28	身体の健康管理①	
	13	ICFの考え方③	29	身体の健康管理②	
	14	自立支援とリハビリテーション①	30	労働環境の整備①	
	15	自立支援とリハビリテーション②	31	労働環境の整備②	
	16	試験	32	試験	
評価方法	試験、提出物、授業態度、出席状況を総合的に評価				
テキスト	介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ③・介護の基本Ⅱ④ (中央法規)				
参考文献	介護福祉士国試ナビ2023・2024 (中央法規) 社会福祉士国試ナビ2023・2024 (中央法規)				
留意事項	<p>ノート・配布資料は、終講までまとめて保管してください。</p> <p>提出物は、期限を厳守して下さい。</p> <p>他教科の提出物の作成、試験勉強は厳禁です。</p> <p>※一部内容を変更することがあります。</p>				



科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護福祉論Ⅱ		演習	2	前期	長谷 由香
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要とする人を生活する人として受け止め、一人ひとりの利用者の生活習慣を理解し、その人らしさを大切にすることとはどのようなことかを考え、表現できる。</li> <li>・居宅サービス、施設サービスの概要を制度と照らし合わせ理解できる。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅サービスおよび施設見学をし、個々の状況に合わせた生活環境を学んでいく。</li> <li>・見学を通して、利用者ひとりひとりに合わせた介護の必要性に気づき、介護技術に必要な基本的な視点を学び身につけることを目的とする。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション、制度等について			
	2	居宅・施設サービスの概要について【見学】 特別養護老人ホーム・養護老人ホームの施設見学			
	3	居宅・施設サービスの概要について【見学】			
	4	障がい者支援施設の見学			
	5	居宅・施設サービスの概要について【見学】			
	6	老人保健施設の見学			
	7	居宅・施設サービスの概要について【見学】			
	8	老人保健施設・特別養護老人ホーム・通所の見学			
	9	居宅・施設サービスの概要について【見学】			
	10	老人保健施設・特別養護老人ホーム・通所の見学			
	11	施設見学の振り返り（学びの発表準備）			
	12	まとめ（発表）			
	13	居宅・施設サービスの概要について【見学】			
	14	介護付き有料老人ホーム・訪問介護			
15	居宅・施設サービスの概要について【見学】 グループホーム・小規模多機能				
評価方法	レポート、見学・発表の取り組みなど総合的に評価します。				
テキスト	介護の基本Ⅱ 介護総合演習（中央法規）				
参考文献					
留意事項	見学内容については変更の可能性があります				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護福祉専門職論		講義	4	通年	酒井 賢一
授業の目標	<p>急速な少子高齢化と世帯構造の変化や推計を超えた認知症高齢者の増加等、社会の変化と共に多様な介護ニーズにいかに対応していくのが日本の大きな課題であり、社会を支える介護の重要性が増す根拠である。</p> <p>この時代のニーズに介護福祉士が専門性を発揮して応えていくことが求められている。介護福祉士の専門職の根幹である「倫理観や責務」と「知識や技術」を学んでいく。</p>				
授業の概要	<p>前期は介護福祉士が必要とする社会になった背景を理解した上で、介護福祉士の使命とこれから担う具体的な役割と実践について関連する法律や制度から学ぶ。特に介護福祉士としての倫理観を考え深め、介護福祉専門職としての存在意義を明確にしていく学びを重視していく。</p> <p>後期は介護福祉専門職としての倫理観を基に、尊厳や権利を介護で擁護することを学ぶと共に、医療的ケアの一部実施など利用者の命と人生に深く関わり、地域包括ケアシステムの中で介護福祉士がなぜ専門性の高い介護を提供しなければならないかを具体的かつ実践的に学ぶ。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション・学びへの導入	16	生活を支えるフォーマルサービス②	
	2	社会福祉士法及び介護福祉士法①	17	生活を支えるフォーマルサービス③	
	3	社会福祉士法及び介護福祉士法②	18	生活を支えるフォーマルサービス④	
	4	介護福祉士の活動の場と役割①	19	地域連携① (意義と目的)	
	5	介護福祉士の活動の場と役割②	20	地域連携② (各機関の理解と連携の実際)	
	6	介護福祉士に求められる役割とその養成	21	多職種連携・協働の必要性	
	7	介護福祉士を支える団体	22	多職種連携・協働に求められる基本的能力①	
	8	介護福祉士の倫理① (実践の倫理)	23	多職種連携・協働に求められる基本的能力②	
	9	介護福祉士の倫理② (実践の倫理)	24	保健・医療・福祉職の役割と機能①	
	10	介護福祉士の倫理③ (倫理判断と対応)	25	保健・医療・福祉職の役割と機能②	
	11	介護福祉士の倫理④ (倫理判断と対応)	26	多職種連携・協働の実際	
	12	日本介護福祉士会の倫理綱領	27	介護従事者の安全 (健康管理の意義と目的)	
	13	生活を支えるインフォーマルサービス	28	介護従事者の安全 (こころと身体の健康)	
	14	生活を支えるフォーマルサービス①	29	介護従事者の安全 (労働環境の整備)	
15	前期まとめ・試験	30	前期・後期まとめ・試験		
評価方法	テストによる評価と授業への向き合い方を総合的に評価する。				
テキスト	使用テキスト (最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I 3・II 4 第2版)				
参考文献	介護福祉士国試ナビ				
留意事項					

※実務経験のある教員 (社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員/老人福祉施設勤務)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
コミュニケーション技術 I		演習	1	前期	伊東 利恵
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護を必要とする者の理解や援助的関係、コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族とのコミュニケーション能力を身につける</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉実践におけるコミュニケーションの意義、目的を理解し、利用者や利用者を取り巻く人々との関係づくりの基本を学び、具体的なコミュニケーション技法などの習得を目指す(適宜ロールプレイを行い、介護職としてのコミュニケーションのあり方について考える)</li> <li>介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション			
	2	介護におけるコミュニケーションとは			
	3	介護におけるコミュニケーションの対象			
	4	援助関係とコミュニケーション			
	5	コミュニケーション態度に関する基本技術(傾聴・受容・共感・距離)			
	6	言語・非言語・準言語コミュニケーション			
	7	目的別のコミュニケーション技術(動機付け・意思決定支援)			
	8	集団におけるコミュニケーション技術			
	9	家族への助言、指導、調整、関係づくり			
	10	家族関係と介護ストレスへの対応			
	11	コミュニケーション実践学習(校外)施設他			
	12	コミュニケーション実践学習(校外)施設他			
	13	コミュニケーション実践学習(校外)施設他			
	14	コミュニケーション実践学習(校外)施設他			
15	まとめ・テスト				
評価方法	出席状況、授業態度、テストなど総合的に評価します				
テキスト	最新 第2版 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術				
参考文献					
留意事項	シラバス内容および順番に変更があるかもしれません。				

※実務経験のある教員(介護福祉士、介護支援専門員/老人福祉施設勤務経験)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術 I - ① (家事・被服)		演習	1	後期	杉本 泉
授業の目標	介護サービスを提供する対象者の生活の質の維持・向上を支援する、基本的な知識技術を習得する				
授業の概要	家庭生活を維持していくために必要な家事や衣生活に関する知識・技術を深める				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 自立生活を支える家事			
	2	家庭経営・家計管理の介護			
	3	悪質商法、クーリングオフ制度			
	4	ごみ捨ての介護、プラスチック・衣類のリサイクル			
	5	洗濯の介護、洗濯マーク			
	6	繊維の種類の特徴、繊維の種類に適したアイロンの温度			
	7	洗濯の介護、洗剤・漂白剤の種類			
	8	衣類の洗い方			
	9	シミの種類に応じた処置			
	10	そうじ、風呂、トイレ、玄関の掃除の介護・注意点			
	11	衣類の衛生管理の介護、防虫、カビ、洗濯とクリーニング			
	12	寝具の衛生管理の介護、中間まとめ・練習問題			
	13	衣類の補修の介護			
	14	和服のたたみ方			
	15	生活時間の管理 (アロマテラピーを使って)			
16	テスト				
評価方法	テスト、実習、提出物、授業態度、出席				
テキスト	生活支援技術 I 中央法規				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者	
生活支援技術Ⅱ－①		演習	3	通年	伊東 利恵	
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在能力を引き出すことや、見守ることも含めた適切な介護技術を習得する。</li> <li>・根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</li> <li>・実践の根拠について、説明できる能力を身につける。</li> <li>・安心安全に配慮した介助方法を習得できる。</li> </ul>					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳の保持、自立支援の観点から個別に応じた介護実践ができる能力を養う。</li> <li>・自立に向けた日常生活動作、人生の最終段階における介護の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</li> </ul>					
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション	17	入浴場面の演習	33	ポータブルトイレ介助
	2	ベッドメイキング	18	自立に向けた排泄の介護	34	衣服の着脱介助（全臥）
	3	ベッドメイキング実践	19	ベッドメイキングテスト	35	衣服の着脱介助（全臥）
	4	休息・睡眠の介護	20	場面に応じた演習	36	オムツ交換
	5	自立に向けた身支度の介護	21	場面に応じた演習	37	オムツ交換（陰洗含む）
	6	衣服の着脱介助の方法	22	個々に応じた 総復習	38	移乗介助 全介助
	7	衣服の着脱介助の方法	23	個々に応じた 総復習	39	移乗介助 全介助
	8	自立に向けた移動の介護	24	移乗介助（一部）	40	多様な利用者状態像に対する総演習
	9	ボディメカニクス応用実践 水平移動・上方移動	25	移乗介助（一部）	41	人生の最終段階における介護
	10	車いす介助	26	体位変換から移乗介助	42	多職種連携について総復習
	11	車いす介助 歩行介助 （校外学習）	27	体位変換から移乗介助	43	総復習
	12	車いす介助 歩行介助 （校外学習）	28	入浴介助の実際・DVD	44	座学全分野総復習
	13	自立に向けた食事の介護	29	入浴介助の実際・DVD	45	実技総復習（演題用いて）
	14	自立に向けた身じたくの介護 （口腔ケア・実践）	30	自立に向けた清潔保持の介護 （清拭）	46	筆記テスト
	15	食事場面の演習	31	自立に向けた排泄の介護	47	実技テスト
	16	自立に向けた入浴の介護	32	ポータブルトイレ介助		
評価方法	出席状況、授業態度、レポート、テスト等で総合的に評価します。					
テキスト	最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（中央法規）第3章自立に向けた移動の介護 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ（中央法規）					
参考文献	介護福祉士実務者研修テキスト第2版 第4巻（中央法規）こころとからだのしくみ 介護職員初任者研修テキスト2（中央法規） 最新介護福祉士養成講座14 障害の理解					
留意事項	演習の授業時は、実習着を着用してください。 必要時マスクを着用してください。 シラバス内容、順番に変更があるかもしれません。					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
認知症の人の支援		演習	1	後期	伊東 利恵
授業の目標	先に学んだ認知症疾患及び周辺症状などを振り返りながら、認知症の方が抱える生活課題を理解して、専門的な知識を生かした介護の基本視点を学ぶ。 また、実技演習を通して、認知症の方への日常生活における介助の方法を身につける。				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人への支援の基本的な視点で実践を通して学ぶ。</li> <li>・様々な日常生活の場面を想定し、事例を通して一人ひとりに合った個別性のある認知症ケアの視点を学ぶ。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション			
	2	認知症ケアとは			
	3	認知症の方と関わる上での基本的態度①			
	4	認知症の方とのコミュニケーションの実際 (校外学習)			
	5	校外学習の振り返り			
	6	認知症の方と関わる上での基本的態度②			
	7	認知症の方とのコミュニケーションの実際 (校外学習)			
	8	校外学習の振り返り			
	9	認知症への対応① SOS ネットワーク模擬訓練			
	10	認知症への対応② SOS ネットワーク模擬訓練			
	11	演習：生活場面に於ける認知症ケア			
	12	演習：生活場面に於ける認知症ケア			
	13	演習：生活場面に於ける認知症ケア			
	14	若年性認知症の人への支援			
15	まとめ 小テスト				
評価方法	出席状況、授業姿勢、レポート等				
テキスト					
参考文献	認知症の理解 (中央法規第2版)				
留意事項	シラバス内容、順番に変更があるかもしれません。				

※実務経験のある教員 (介護福祉士、介護支援専門員/老人福祉施設勤務経験)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者	
介護過程 I		演習	3	通年	中社 佳子	
授業の目標	<p>(前期) 介護過程とは何かということを理解する。 「アセスメント」「計画の立案」「実施」「評価」のプロセスについての基礎的な知識を理解する。</p> <p>(後期) 他の科目で学んだ知識や技術を統合し適切な介護計画を立案することができる。 事例を用いてアセスメントから評価までの一連の思考過程を理解することができる。</p>					
授業の概要	<p>(前期) プロセスごとに演習を組み込むことで振り返りと、実際に介護過程を展開する方法を学べるようにする。</p> <p>(後期) 事例を用いた演習課題を繰り返す行うことで介護過程を展開する力を養う。</p>					
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ
	1	オリエンテーション	16	まとめ	31	アセスメントの実際①
	2	介護過程の意義・目的	17	介護過程の実践的展開	32	アセスメントの実際②
	3	介護過程の全体像	18	介護過程展開の実際①	33	アセスメントの実際③
	4	生活支援の基本的な考え方	19	介護過程展開の実際②	34	発表
	5	生活支援と介護過程	20	介護過程展開の実際③	35	介護過程の実践的展開①
	6	生活支援とチームアプローチ	21	発表	36	介護過程の実践的展開②
	7	介護過程の展開	22	介護過程とケアマネジメントの関係性	37	介護過程の実践的展開③
	8	アセスメント (情報収集)	23	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	38	発表
	9	情報収集の方法	24	利用者の様々な生活と介護過程の展開	39	介護計画の立案①
	10	アセスメント (解釈・関連づけ・統合化)	25	介護過程の展開 事例	40	介護計画の立案②
	11	解釈・関連づけ・統合化のトレーニング	26	介護過程の展開 事例	41	介護計画の立案③
	12	介護計画の立案	27	発表	42	発表
	13	介護の実施	28	介護過程の展開 事例	43	試験
	14	評価	29	介護過程の展開 事例	44	総まとめ①
	15	試験	30	発表	45	総まとめ②
評価方法	出席状況、授業態度、試験、提出物					
テキスト	最新介護福祉士養成講座 介護過程 生活支援技術 I (中央法規)					
参考文献						
留意事項	参加型授業のため積極的な態度で受講する					

※実務経験のある教員 (介護福祉士、介護支援専門員/老人福祉施設勤務経験)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者	
介護実習指導 I		演習	3	通年	長谷 由香	
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他科目の学びの統合化により基本的な知識・技術を習得し、実習で知識・技術を活かすことができる。また、知識・技術を再確認し目標を明確にして実習に向かい、自身の課題を明確化できる。</li> <li>・実習先の取り組みを情報交換し、それぞれのやり方や考え方に興味を示し検討するなかで、柔軟に受け入れる姿勢を持ち、なぜそうするのかの科学的な根拠を学ぶことができる。</li> <li>・実習体験を通して、多職種協働の視点から、個々の生活支援の課題について多面的な視点で考えることができる。</li> </ul>					
授業の概要	<p>当科目では、①介護実習の指導②他科目での学びの統合化③多職種協働の意味と重要性の意識化④学習到達状況の把握と個別指導⑤養成教育全体の総まとめを目的として、450時間の介護実習の全体像を踏まえた上で、介護実習前には介護技術の確認また実習後には事例報告会などを行い、次の実習につなげていくことを目指し、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習を展開する。</p>					
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ
	1	実習指導での学び・目的	16	介護実習Ⅱ報告会(聴講)	31	カンファレンス 演習
	2	実習の目的・自己覚知	17	事後指導④振り返り 3	32	事前準備⑦実習態度 1
	3	実習施設の理解～通所～	18	事後指導⑤振り返り 4	33	実習前実技テスト
	4	実習の進め方(書類説明)	19	事後指導⑥振り返り 5	34	事前準備⑧態度テスト
	5	事前準備①目標指導	20	事前準備①目的・目標	35	事前準備⑨実習態度 2
	6	事前準備②記録指導 1	21	実習施設の理解～入所～	36	日誌・情報収集について 1
	7	事前準備③記録指導 2	22	実習の進め方(書類説明)	37	日誌・情報収集について 2
	8	事前準備④実習態度 1	23	事前準備③記録指導	38	事後指導①振り返り 1
	9	実習前実技テスト	24	事前準備④観察と考察 1	39	事後指導②振り返り 2
	10	事前準備⑤マナー講座	25	事前準備⑤観察と考察 2	40	事後指導③振り返り 3
	11	事前準備⑥態度テスト	26	事前準備⑥目標指導	41	事後指導④振り返り 4
	12	事前指導⑦実習態度 2	27	実習Ⅱ事例報告会(聴講)	42	自己の課題振り返り・まとめ
	13	事前指導①振り返り 1	28	実習Ⅱ事例報告会(聴講)	43	介護実習Ⅰ(4週)報告会
	14	事前指導②振り返り 2	29	カンファレンスについて	44	介護実習Ⅱの目的と内容
	15	介護実習Ⅰ(2週)報告会	30	カンファレンス 演習	45	介護実習Ⅱへ向けて・介護観
評価方法	発表・受講態度など総合的に評価します。					
テキスト	最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習(中央法規) 最新介護福祉士養成講座 9 介護過程(中央法規) 実習のしおり					
参考文献						
留意事項	内容の変更があるかもしれません。					



科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
介護実習 I	実習	6	通年	伊東利恵・中社佳子・長谷由香
授業の目標	<p><b>【2週間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での生活を支える施設の役割及び利用者の日常生活について理解する。</li> <li>・学内諸学習を応用し、コミュニケーションや生活支援を行う能力を習得する。</li> <li>・多職種との協働の中で、介護職の役割と業務内容を理解する。</li> <li>・自分自身の目標や課題を明確化できる。</li> </ul> <p><b>【4週間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の流れを知り、基本的な生活支援技術を学ぶ。</li> <li>・実際の介護現場のあり方と個別ケアの方法及び関連職種との連携について学ぶ。</li> <li>・自己の実践した介護について客観的に振り返り、自分自身の目標や課題を明確化できる。</li> </ul>			
授業の概要	<p>①対象者の地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、様々な場において対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得すること。</p> <p>②本人の望む生活の実現に向けて、多職種連携やチームケアを体験的に学び、介護福祉士としての役割を理解するとともに、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践する能力を養うこと。</p>			
授業計画	<p style="text-align: center;">学習内容・テーマ</p> <p>実習先：【2週間】～コミュニケーション技術、基礎的生活支援技術 通所リハビリテーション・通所介護 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、障害者支援施設</p> <p>実習先：【4週間】～介護過程（情報収集の実施）、基礎的生活支援技術 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、障害者支援施設</p> <p>※適時、実習先巡回、およびカンファレンスに参加し、指導アドバイスを行う。</p>			
評価方法	<p>実習施設評価表に基づく評価、学校評価 実習態度、記録など総合的に評価します</p>			
テキスト	<p>介護総合演習（中央法規）</p>			
参考文献				
留意事項				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
認知症の理解 I		講義	2	前期	五十嵐 あや子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解できる。</li> <li>●ケアの理念（自立支援・自律支援・尊厳の保持）の重要性を理解できる</li> <li>●本人主体の理念に基づいた適切な全人的ケアを提供できる知識を理解し、認知症の人の特性を踏まえたアセスメントを行う知識を習得できる。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症の定義・認知症の人の医学・行動・心理的理解</li> <li>●認知症の人の体験・生活の理解と認知症の進行に応じたかかわりかた（認知症の人の生活および家族や社会とのかかわりへの影響を理解）</li> <li>●演習の進行に伴う役割（司会・書記・発表者）を経験し、チームワーク・リーダーシップを理解</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		演習内容・参考資料など	
	1	認知症のある高齢者の現状と今後 認知症とは何か		資料「認知症を正しく…」	
	2	脳のしくみ 認知症の人の心理		資料「社会脳科学」 演習「生活支援の理解」	
	3	認知症の症状（中核症状・生活障害の理解）		演習 2-1・2-2 資料「認知症施策推進大綱」	
	4	認知症の症状（BPSD）認知症の診断と重症度		資料「HDS-R の実際」「認知症高齢者判定フローチャート」	
	5	認知症の原因疾患と症状・生活障害		資料「四大認知症」「新病名」	
	6	若年性認知症・認知症の治療薬・予防		演習 2-4・2-6 「薬剤療法」	
	7	認知症を取り巻く状況		DVD 視聴（初任者研修）「日野原重明先生の世界」	
	8	認知症ケアの理念と視点		資料「フィーリングの世界」	
	9	認知症当事者の視点からみえるもの		DVD 視聴「一人のこころを見つめるケア」 演習 3-3	
	10	認知症ケアの実際（パーソンセンタードケア）		資料「私は誰になっていくの？」 演習 4-1	
	11	認知症の人の特性を踏まえたアセスメント・ツール		資料「認知症ポジティブ」	
	12	終末期医療と介護・認知症の人とのコミュニケーション		資料「グリーフケア」・演習「コミュニケーションの実際」	
	13	認知症の人へのケア（食事排泄等）		資料「七つの良い言葉「食行動」	
	14	認知症の人へのさまざまなアプローチ		資料・演習「ユマニチュードの実際」	
	15	環境づくり		音読「手紙」 演習 4-4	
16	筆記試験（評価）		資料 避難所で生活する認知症の人家族への支援ガイド		
評価方法	筆記試験・出席率・受講態度				
テキスト	中央法規 最新・介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解				
参考文献	新介護福祉士養成講座 1 2 社会脳科学（伊古田医師）		初任者研修（職務の理解の DVD） 認知症ポジティブ（山口晴保著）		
留意事項	必要機材・物品については事前に連絡				

※実務経験のある教員（看護師／介護老人保健施設勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
障害の理解 I		講義・演習	2	通年	金子一也・阿部みつゑ・長谷由香
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得する。障害のある人の生活を理解し自立に向けた生活支援につなげるための介護技術を学ぶとともに家族に対する支援、連携と協働について学ぶ。</li> <li>・身体内部における原因疾患をよく理解するとともに重症度も考慮に入れ利用者の介護にあたる上での注意点について理解し、自分の言葉で具体的に表現できる。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身に障害を持つ人を理解するため、体験談や事例を取り入れグループ討議を行い、自己覚知を進めていく。</li> <li>・疑似体験など演習を取り入れ障害を持つ人の生活を具体的に理解し、講義で理解し学んだことを自分の言葉で述べる場を持ち、自己の考えを言語化することを目指す。</li> <li>・医療職と連携協力していくための、心肺機能の基本を学び実際の具体的援助方法を身につけることを目指す。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション・障害とは何か【あゆみ見学・体験】			
	2	障害のある人の生活の理解①【あゆみ見学・体験】			
	3	障害のある人の生活の理解②【あゆみ見学・体験】			
	4	障害のある人の生活の理解③【あゆみ見学・体験】			
	5	障害のある人の生活の理解④難病（釧路保健所）			
	6	障害のある人の生活の理解⑤難病（釧路保健所）			
	7	障害の概念・基本理念（金子）			
	8	障がい者福祉に関連する制度①（金子）			
	9	障がい者福祉に関連する制度②（金子）			
	10	障がい者福祉制度と介護保険制度①（金子）			
	11	障がい者福祉制度と介護保険制度②（金子）			
	12	心臓・腎臓・呼吸機能障害のある人の生活①（阿部）			
	13	心臓・腎臓・呼吸機能障害のある人の生活②（阿部）			
	14	心臓・腎臓・呼吸機能障害のある人の生活③（阿部）			
	15	膀胱・直腸機能障害のある人の生活④（阿部）			
評価方法	受講態度 レポート 記述試験				
テキスト	障害の理解（中央法規） 生活支援技術Ⅲ（中央法規） 社会の理解（中央法規）				
参考文献	国試ナビ（中央法規） こころとからだのしくみ（中央法規）他				
留意事項	※内容が変更になる場合があります。				

※実務経験のある教員

金子（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士／障がい者支援施設勤務）

阿部（看護師／病院勤務経験）

長谷（看護師／病院勤務経験）

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こころとからだのしくみ I		講義	4	通年	五十嵐 あや子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護技術の根拠となるこころとからだのしくみを介護実践と関連づけて理解できる</li> <li>●介護における安全への留意点をこころとからだのしくみから理解できる</li> <li>●人体の構造や機能を理解するための基礎的な知識を習得できる</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護実践の根拠と、人間の基本的欲求や生命維持のしくみなどを学ぶ</li> <li>●利用者の生活を支える介護実践（食事・排泄・身じたく、睡眠など）との関係を学ぶ</li> <li>●人体の構造や機能についての基礎的な知識を解説し、介護実践との関連を学ぶ</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	健康とは何か	17	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①	
	2	人間の欲求とは	18	身じたくに関連したこころとからだのしくみ②	
	3	自己実現と尊厳	19	食事に関連したこころとからだのしくみ①	
	4	こころのしくみを理解する①	20	食事に関連したこころとからだのしくみ②	
	5	こころのしくみを理解する②	21	食事に関連したこころとからだのしくみ③	
	6	からだのしくみを理解する①	22	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	
	7	からだのしくみを理解する②	23	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	
	8	からだのしくみを理解する③	24	身じたく清潔保持のまとめ	
	9	からだのしくみを理解する④	25	排泄に関連したこころとからだのしくみ①	
	10	からだのしくみを理解する⑤	26	排泄に関連したこころとからだのしくみ②	
	11	からだのしくみを理解する⑥	27	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①	
	12	移動に関連したこころとからだのしくみ①	28	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ②	
	13	移動に関連したこころとからだのしくみ②	29	人生の最終段階のケア①	
	14	移動に関連したこころとからだのしくみ③	30	人生の最終段階のケア②	
	15	移動に関連したこころとからだのしくみ④	31	筆記試験（評価）	
	16	筆記試験（評価）	32	人体の構造と機能の基礎的な知識 まとめ	
評価方法	筆記試験・出席率・受講態度				
テキスト	中央法規 介護福祉士養成講座 1 1 こころとからだのしくみ				
参考文献	成美堂出版 ぜんぶわかる人体解剖図・からだの事典				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者	
医療的ケア		講義	4	通年	長谷 由香	
授業の目標	・医療職との連携のもとで医療的ケアを安全、適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。					
授業の概要	・基礎的知識を身につける ・実施時の留意点や緊急時の対応 (実践的知識の習得) 解剖学的な基礎知識から医療的ケアの手順、技術へと知識を積み重ね、次年度の基本研修 (演習) につなげる。					
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ
	1	人間の尊厳と自立・医療の倫理1.0 介護職員と医療的ケア0.5	10	呼吸のしくみとはたらき 1.5	24	消化器系のしくみとはたらき 1.5
	2	保健医療制度 1.0 医療行為に関する法律 0.5	11 12	いつもと違う呼吸状態 1.0 喀痰吸引とは 1.0 痰の吸引で用いる器具・機材とそのしくみ 1.0 (*演習: 吸引器具・機材)	25 26	消化吸収とよくある消化器の症状 1.0 経管栄養とは 1.0 こどもの経管栄養について 1.0
	3	チーム医療と介護職員との連携 0.5 感染予防・職員の感染予防 1.0 (*演習: 手洗い)	13 14	人工呼吸器と吸引 1.0 人工呼吸器と吸引 1.0 子どもの吸引について 1.0	27	経管栄養に必要なケア 1.0 利用者や家族の対応、説明と同意 0.5
	4	療養環境の清潔、消毒法 減菌と消毒 1.5	15	呼吸器系感染と予防 1.0 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 0.5	28 29	経管栄養に関する感染と予防 1.0 経管栄養用いる器具機材とそのしくみ、清潔の保持 1.0 注入する内容に関する知識 1.0 (*演習: 器具・機材)
	5	急変状態について 0.5 身体・精神の健康 1.0	16 17	痰の吸引に伴うケア 1.0 痰の吸引により生じる危険事後の安全確認 1.0 急変・事故発生時の対応と事前対策 1.0	30 31	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 1.0 急変・事故発生時の対応と事前対策 1.0 報告及び記録 1.0
	6	健康状態を知る項目 1.5 (*演習: バイタル測定)	18 19	急変・事故発生時の対応と事前対策 1.0 報告及び記録 1.0 吸引の技術と留意点 1.0 (*演習: 喀痰吸引)	32 33 34 35	経管栄養実施上の留意点 1.0 経管栄養の技術と留意点 ①1.5 ②1.5 ③1.0 ④1.0 (*演習: 経管栄養)
	7 8	痰の吸引や経管栄養の安全な実施 2.0 (1.0×2回) まとめ	20 21	吸引の技術と留意点 1.5 吸引の技術と留意点 1.5		基本研修 (講義) : 50 時間
	9	修了試験 1.0	22 23	吸引の技術と留意点 1.0 救急蘇生法 2.0 (1.0×2)		修了試験: 1 時間 まとめ: 30 分 計: 35 コマ
	評価方法	受講態度、筆記試験				
テキスト	「医療的ケア」中央法規					
参考文献						
留意事項						

介護環境科 2 年

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
ホームルーム活動Ⅱ	演習	2	通年	伊東 利恵
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団での関わりの中で、個々が社会人として必要な素養を身につける</li> <li>・ チームワークの大切さを学び、チームマネジメントできる能力を養い、協調性を学ぶ</li> <li>・ コミュニケーション能力の向上を図り、信頼関係構築について学ぶ</li> <li>・ 異なる価値観の存在を受け止め、エンパワメントを重視した関わりについて実践し学ぶ</li> </ul>			
授業の概要	<p>コミュニケーション力の向上、多職種連携によるチームケアの実践力の向上、また制度を理解し柔軟に介護サービスに対応するための能力が求められる。当科目では、クラスレクリエーションや学校行事など学生が自ら企画・実践を行う場を受け、その中で、信頼関係の構築・エンパワメントを意識しながら積極的に人と関わり上記能力の向上を目指していく 自然などに触れ合う機会を設け、気づきを養う視点を高める</p>			
授業計画	学習内容・テーマ			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各ガイダンスの実施 (就職・教務など)</li> <li>・ クラスレクリエーション活動の打ち合わせ及び実施</li> <li>・ 学生会行事、学校行事への参加及び実施</li> <li>・ 校外学習活動の実施</li> <li>・ 外部研修会の聴講、参加</li> </ul>			
評価方法	授業態度、協調性、積極性等を重要視し、総合的に判断する。			
テキスト				
参考文献				
留意事項	クラスは、チームと捉え、日頃から人との関わりに意識しましょう			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
障害者とスポーツⅡ		演習	1	前期	山本 悟
授業の目標	障がい者スポーツのいくつかの種目をモデル的に学習しながら、最適化した学びを提供するための方法ならびに理論を学習し、対象者の能力に応じた学習指導計画を立案できるようになる。				
授業の概要	障害者とスポーツの関係をみつめ、実施者の感覚に立脚した動きの指導法について学習する。そこでは、障害者スポーツ指導教本に基づきながら、理論的な学習を進めるとともに、実技実習を通して、障害者スポーツの指導に関わる、基礎能力を育成する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション／スポーツをめぐる諸問題			
	2	障がい者スポーツにおけるゴール型ゲームの工夫①			
	3	障がい者スポーツにおけるゴール型ゲームの工夫②			
	4	障がい者スポーツにおける器械運動の工夫①			
	5	障がい者スポーツにおける器械運動の工夫②			
	6	障がい者スポーツにおける器械運動の工夫③			
	7	地域の特性を考慮した障がい者スポーツの工夫① (スケート)			
	8	地域の特性を考慮した障がい者スポーツの工夫② (スケート)			
	9	対象者を考慮したスポーツ実践について			
	10	対象者を考慮したスポーツ実践の計画			
	11	対象者を考慮したスポーツ実践の提供①			
	12	対象者を考慮したスポーツ実践の提供②			
	13	障がい者スポーツにおけるニュースポーツの工夫①			
	14	障がい者スポーツにおけるニュースポーツの工夫②			
15	まとめ				
評価方法	出席状況、授業での活動状況、レポートにより総合的に評価する。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考文献	日本障害者スポーツ協会 (2012) 障害者スポーツ指導教本 初級・中級 (改訂版) ぎょうせい：東京 植木ら (2017) アダプテッド・スポーツ概論 東京教学社：東京				
留意事項	実技実習を行うゆえ運動に適した最適な服装で出席すること。 受講者の状況によって内容の順番をかえたり、アレンジをしたりする。				



科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者	
国家試験対策Ⅱ・Ⅲ		講義	2	通年	金子一也・酒井賢一・匹田美紀子	
授業の目標	<p>急速な高齢化と世帯構造の変化や、推計を超えた認知症高齢者の増加等、社会的な介護ニーズの増大に介護福祉士の存在とその実践が更に求められる。</p> <p>介護福祉士を取得することを目標とした各学生の目標達成と、この時代の要請に応える介護の専門職である介護福祉士を1人でも多く輩出することを目標とする。(国家試験対策Ⅰと同様)</p>					
授業の概要	<p>介護福祉士の専門性と実践の根拠として必要な社会と制度のしくみを日々の講義で学ぶことを前提として、その学びを介護福祉士国家試験の合格に結びつけるための受験対策の授業とする。</p> <p>具体的にはこれまでの国家試験の出題傾向や今後の社会福祉におけるニーズを見据えながら、ポイントを押さえて、介護福祉士国家資格の取得に結びつくための授業とする。</p> <p>基本知識をベースに応用的な問題にも回答できるような国試対策を行う。</p>					
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ	
	1	介護の基本① (匹田) 4/10(月)②		16	グループ① 9/4(月)②	
	2	介護の基本② (匹田) 4/17(月)②		17	グループ② 9/11(月)②	
	3	介護の基本③ (匹田) 4/24(月)②		18	グループ③ 9/25(月)②	
	4	介護の基本④ (匹田) 5/8(月)②		19	グループ④ 10/2(月)②	
	5	介護の基本⑤ (匹田) 5/15(月)②		20	グループ⑤ 10/16(月)②	
	6	社会の理解① (酒井) 5/22(月)②		21	グループ⑥ 10/23(月)②	
	7	社会の理解② (酒井) 5/29(月)②		22	グループ⑦ 10/30(月)②	
	8	社会の理解③ (酒井) 7/10(月)②		23	グループ⑧ 11/6(月)②	
	9	社会の理解④ (酒井) 7/24(月)②		24	グループ⑨ 11/20(月)②	
	10	社会の理解⑤ (酒井) 8/28(月)②		25	グループ⑩ 11/27(月)②	
	11	障害の理解① (金子) 5/22(月)①		26	グループ⑪ 12/4(月)②	
	12	障害の理解② (金子) 5/29(月)①		27	グループ⑫ 12/11(月)②	
	13	障害の理解③ (金子) 7/14(金)①		28	グループ⑬ 12/18(月)②	
	14	障害の理解④ (金子) 7/21(金)①		29	グループ⑭ 1/15(月)②	
	15	障害の理解⑤ (金子) 7/28(金)①		30	グループ⑮ 1/22(月)②	
評価方法	過去問題及び模擬問題による目標の達成度、習熟度を評価する。					
テキスト	介護福祉士ナビ2023、社会福祉士国試ナビ2024、プリント 配布されたテキスト (最新・介護福祉士養成講座 (第2版) 2社会の理解 他)					
参考文献	介護福祉士過去問題集他					
留意事項	提出物は、期限を厳守してください。 ノート・プリント・資料は終講まで保管し、毎講持参してください。					

※実務経験のある教員

金子 (社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士/障がい者支援施設勤務)  
 酒井 (社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員/老人福祉施設勤務)  
 匹田 (介護福祉士/老人福祉施設勤務経験)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
アクティビティ・ケアⅡ		演習	1	前期	桂 裕二 豊島 節子 阿部 素子
授業の目標	1年次のアクティビティ・ケアⅠの学びを更に深め、実践できるようになることを目指す。				
授業の概要	アクティビティ・ケアの様々な実践例から、アクティビティ・ケアの実際を学ぶ。その一つ一つのアクティビティが、どうプランニングされケアに結びつくのか、方法をさらに理解し、その方法を踏まえて実践する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	集団体操①	16		
	2	集団体操②	17		
	3	塗り絵	18		
	4	民舞	19		
	5	コミュニケーション～世代間交流～	20		
	6	生活環境・人生歴～食	21		
	7	書道①	22		
	8	書道②	23		
	9	書道③	24		
	10	書道④	25		
	11	計画	26		
	12	立案	27		
	13	準備	28		
	14	実践	29		
15	まとめ・テスト	30			
評価方法	受講態度、取組姿勢、レポート、発表を総合的に評価する				
テキスト					
参考文献	高齢者の楽楽アクティビティ・ケアの進め方				
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
人間関係とコミュニケーションⅡ		講義・演習	2	後期	本間 咲江
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身に着け、介護実践に必要な視点を学ぶ</li> <li>・総合的な判断力及び豊かな人間性を養い、介護実践を支える教養を高める</li> <li>・チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養い、介護の質を高めるための知識を身に着ける</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の質を高める為に必要なチームマネジメントの基礎的な判断力及び豊かな人間性を養う</li> <li>・介護サービスの特性を求められるマネジメントを学ぶ</li> <li>・組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ、フォロワーシップ等チーム運営の基本を理解する</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	介護実践におけるチームマネジメントの意義	1. ヒューマンサービスとしての介護サービス		
	2	介護実践におけるチームマネジメントの意義	2. 介護現場で求められるチームマネジメント		
	3	介護実践におけるチームマネジメントの意義	3. 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み		
	4	ケアを展開するためのチームマネジメント	1. ケアを展開する為に必要なチームとその取り組み		
	5	ケアを展開するためのチームマネジメント	2. チームでケアを展開するためのマネジメント		
	6	ケアを展開するためのチームマネジメント	3. チームの力を最大化するためのマネジメント		
	7	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	1. 介護福祉職のキャリアと求められる実践力		
	8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	2. 介護福祉職としてのキャリアデザイン		
	9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	3. 介護福祉職のキャリア支援・開発		
	10	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	4. 自己研鑽に必要な姿勢		
	11	組織の目標達成のためのチームマネジメント	1. 介護サービスを支える組織の存在		
	12	組織の目標達成のためのチームマネジメント	2. 介護サービスを支える組織の機能と役割		
	13	組織の目標達成のためのチームマネジメント	3. 介護サービスを支える組織の管理		
	14	介護実践の為にチームについて考えてみる (GWを検討中)			
15	テスト・まとめ				
評価方法	出席状況・授業態度・小レポート等				
テキスト	人間の理解 (中央法規出版) その他				
参考文献	人間の理解 (中央法規出版) その他				
留意事項	必要な資料等があれば事前に相談させていただきます。内容や順番は変更となる場合があります。				

※実務経験のある教員 (社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士/老人福祉施設勤務)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
児童福祉論		講義	2	後期	豊島 節子
授業の目標	<p>子どもは「生きる権利」を持って生まれてくる。そして成長の原理によって心身ともに伸びやかに成長する。しかし、それを阻むさまざまな問題が存在するのも事実である。そういった問題を解決し、子どもの権利を保障するために、児童福祉法をはじめとする、児童福祉関連の法律や制度がある。子どもの本質を理解し、子どもの支援を考えていく作業は介護福祉の対象である高齢者や障害児・者を理解することに他ならない。確かな人間観を培うことをねらいとしたい。</p>				
授業の概要	<p>基本的には講義形式で進めるが、時にDVDや資料も用いて、理解を深めたい。 その際、常に自分に置き換えて「自分だったら」と考える視点を持ち、他者の考え方に触れることができるよう、グループのような演習も行う。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	オリエンテーション	16		
	2	児童福祉の理念と概念	17		
	3	児童福祉の歴史の変遷	18		
	4	児童の人権擁護と児童福祉①	19		
	5	児童の人権擁護と児童福祉②	20		
	6	児童福祉の制度と法体系①	21		
	7	児童福祉の制度と法体系②	22		
	8	児童福祉施設	23		
	9	児童福祉の専門職・実施者	24		
	10	児童虐待防止と社会的養護の動向①	25		
	11	児童虐待防止と社会的養護の動向②	26		
	12	障害のある児童への支援①	27		
	13	障害のある児童への支援②	28		
	14	保育・教育・療育・保健・医療との連携とネットワーク	29		
15	まとめ	30			
評価方法	受講態度、取組姿勢、レポート				
テキスト					
参考文献	福祉小六法				
留意事項	内容が変更になる場合があります				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
地域福祉論		講義・演習	2	後期	小野信一・伊東利恵 釧路福祉関係者
授業の目標	<p>到達目標</p> <p>①社会福祉を広い視野でとらえ、その上で地域福祉の基礎と全体的な枠組みを把握することができる。</p> <p>②地域福祉推進の担い手として、社会資源の理解、在宅福祉サービス等、地域を基盤としたフォーマル・インフォーマルサービスについて理解することができる。</p>				
授業の概要	<p>地域福祉の意義を理解してもらい、地域福祉推進の担い手としての介護福祉士の役割とは何かを学ぶ。また、在宅福祉サービスのあり方や地域を基盤とした援助のあり方を理解する。現代の時代背景を踏まえ、中核的推進組織である社会福祉協議会やコミュニティ・ソーシャルワーカーの現状と課題、在宅福祉サービスの現状と課題、さらには住民自身が地域福祉課題を解決していく主体的活動である「NPO活動」や「ボランティア活動」、「当事者組織」のあり方とその支援方法について学ぶ。適宜ゲストスピーカーを招いてディスカッションを実施する。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		講師・内容	
	1	オリエンテーション		伊東	
	2	地域福祉の意義・目的		小野信一氏	
	3	釧路市における地域福祉・高齢者福祉の現状と課題		社会援護課 介護高齢課 速水氏	
	4	介護予防支援 ～住民等主体の通所サービスについて～		大津洋子氏 (おたっしゅサービス共和)	
	5	地域における社会資源とは～フードバンク～		ワーカーズコープ 本間千明樹氏 釧路市 社会	
	6	地域の担い手となる多様な活動①～地域食堂～		ワーカーズコープ 本間千明樹氏	
	7	地域の担い手となる多様な活動②～地域食堂～		ワーカーズコープ 本間千明樹氏	
	8	官民協働による生活困窮者の支援体制 ～自立生活の実現につながる支援～		一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 生活相談支援センターくらしごと 櫛部氏	
	9	地域における障害者福祉の現状と課題		NPO 法人 縁 金子氏	
	10	地域包括支援センターの役割 ★		釧路東部南地域包括支援センター 赤間氏	
	11	地域における住民団体の現状と課題 ★		釧路市連合町内会 黒木氏 森氏	
	12	社会福祉協議会の位置づけと活動内容 ～中核的推進組織の活動・権利擁護～ ★		釧路市社会福祉協議会 博田氏	
	13	私たちが捉えた地域福祉活動とは ～★発表・グループワーク～			
	14	私たちが捉えた地域福祉活動とは ～★発表・グループワーク～			
15	まとめ		小野信一氏		
評価方法	レポート課題・提出物内容・期限 60% 出席状況・受講態度 40%				
テキスト	必要時資料を配布します。				
参考文献					
留意事項	提出物については、期限を守りましょう。移動手段の安全徹底				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
視覚障害者・聴覚障害者の支援		演習	1	後期	土岐 勝江・長谷川 由佳里
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話の学習を通して、聴覚障がい者への理解を深める。</li> <li>・コミュニケーションの大切さを学ぶ</li> <li>・手話で簡単な日常会話を行う。</li> <li>・手話で自己紹介をする。</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字の知識、技術等の習得を通じて、視覚障がい者に対する理解を深める。</li> <li>・テキストを使用、実技中心の授業により、点字の読み書きを身につける。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技を中心に行う。</li> <li>・基本の単語を学び、自己紹介・会話へとつなげる。</li> <li>・DVDを使用し「ろうあ者」の表現を学ぶ。</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字の歴史・概要</li> <li>・点字器の使い方</li> <li>・点字の読み方と表記</li> <li>・点字絵本の作成</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ
	1	聴覚障がい者の特性、手話の特徴・指文字		16	
	2	自己紹介 (名前・あいさつ)		17	
	3	自己紹介 (家族の表現)		18	
	4	自己紹介 (趣味・仕事)		19	
	5	数字の表現 (年齢、月日、時間)		20	
	6	住所・地名の表現		21	
	7	会話文の表現、自己紹介のまとめ		22	
	8	読み取り試験、筆記試験		23	
	9	点字のしくみ・点字器の使い方		24	
	10	点字の読み方と表記 (かなづかい)		25	
	11	点字の表記 (数字・アルファベット)		26	
	12	" (記号・文章)		27	
	13	" (分かち書き)		28	
	14	ミニ点字絵本作成		29	
15	"		30		
評価方法		手話：受講態度、表現・読み取り試験、筆記試験 点字：受講態度、提出物など			
テキスト		今すぐはじめる手話テキスト「聴さんと学ぼう！」／「初めての点訳」第3版			
参考文献					
留意事項		DVD (手話奉仕員養成カリキュラム「手話で学ぼう、手話で話そう」) 使用 (手話)			

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
リスクマネジメント論		講義	2	前期	長谷 由香
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性を理解し、介護福祉現場の実際の場面を多角的に分析する中から、安全対策の必要性について述べることができる。</li> <li>・介護従事者自身が心身ともに健康に就労継続するために、介護福祉実践するための健康管理方法を具体的に上げるとともに、労働環境の管理の重要性について述べるができる。</li> </ul>				
授業の概要	自律・自立した介護福祉士となることを念頭に、「求められる介護福祉士像」に掲げられる、「本人が望む生活を支える」や「QOLの維持・向上」の視点など、利用者の「生活」を支えるという視点から、高い倫理性を保持し、専門的な活動を行うために必要なリスクマネジメント能力の獲得を目指す。尊厳・倫理の保持の視点から、事例の検討を行い、実践に照らし合わせて学びを深めていくことを目指す。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション			
	2	事故防止、安全対策①			
	3	事故防止、安全対策②			
	4	感染管理のための対策①			
	5	感染管理のための対策②			
	6	感染管理のための対策③			
	7	介護における安全の確保			
	8	服薬管理とリスクマネジメント			
	9	事故防止、安全対策③			
	10	事故防止、安全対策④			
	11	介護従事者の心身の健康管理の重要性①			
	12	介護従事者の心身の健康管理の重要性②			
	13	介護福祉士の働き方			
	14	介護とは何か			
15	まとめ・試験				
評価方法	記述試験 受講態度				
テキスト	4 介護の基本Ⅱ (中央法規) 福祉現場のための感染症対策入門 感染症の基本知識から新型コロナウイルス対応まで				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
コミュニケーション技術Ⅱ		演習	1	前期	佐山 由起子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション障害のある人の特性に応じたコミュニケーションの知識・技術を習得する。</li> <li>・介護におけるチームコミュニケーションの基本的な知識と技術を習得する。</li> </ul>				
授業の概要	<p>対象者を理解したうえで具体的なコミュニケーション技法を習得する。ロールプレイ、グループ学習を通してコミュニケーションのあり方を学ぶ。(介護福祉士にとって「コミュニケーション」は最も重要なスキルである。その方法を学ぶ機会とする)</p> <p>チームコミュニケーションでは情報の共有化の意義を理解し、具体的な方法を学ぶ。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	コミュニケーション障害への対応への基本①			
	2	コミュニケーション障害への対応への基本②			
	3	コミュニケーション障害のある人への支援① 視覚障害			
	4	コミュニケーション障害のある人への支援② 聴覚障害			
	5	コミュニケーション障害のある人への支援③ 失語症・構音障害			
	6	コミュニケーション障害のある人への支援④ 認知症			
	7	コミュニケーション障害のある人への支援⑤ うつ病・統合失調症			
	8	コミュニケーション障害のある人への支援⑥ 知的障害・発達障害			
	9	コミュニケーション障害のある人への支援⑦ 高次脳機能障害			
	10	コミュニケーション障害のある人への支援⑧ 肢体不自由・重症心身障害			
	11	コミュニケーション障害のある人への支援⑨ 事例 【ディスカッション】			
	12	介護におけるチームコミュニケーション① (記録・報告・連絡・相談)			
	13	介護におけるチームコミュニケーション② (会議・報告と申し送り)			
	14	介護におけるチームコミュニケーション③ (事例検討・情報の活用と管理)			
	15	定期試験			
16	まとめ				
評価方法	試験 (筆記) グループ討議の参加状況 レポート				
テキスト	コミュニケーション技術 (中央法規出版)				
参考文献	ことばの障害のケア・ガイドブック 対人援助とコミュニケーション (中央法規出版)				
留意事項	グループディスカッション、ロールプレイなどの参加型授業を行うため積極的な態度で受講する。※内容が変更になる場合があります。				



科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術 I—② 食生活		講義・演習	1	通年	村山 恵子
授業の目標	高齢者の生活を支える上で食事には、重要な役割があることを理解し、身体状況に合わせた安全な食事提供ができる知識や技術を習得する。				
授業の概要	食生活の基本知識と、高齢者の身体状況を理解した上で調理の基本や調理実習で実際の食事を作り、目で見て食べて理解する。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	食生活の基本知識			
	2	調理実習① 調理の基本について			
	3	〃 〃			
	4	調理実習② 食べやすい食事の工夫			
	5	〃 〃			
	6	調理実習③ 春の行事食			
	7	〃 〃			
	8	調理実習④ 高齢者に喜ばれる食事			
	9	〃 〃			
	10	調理の支援についてのまとめ テスト対策			
	11	筆記テスト			
	12	国家試験対策①			
	13	国家試験対策②			
	14	国家試験対策③			
	15	国家試験対策④			
16	国家試験対策⑤				
評価方法	演習態度、筆記テスト、出席数				
テキスト	生活支援技術 I (中央法規)				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術 I - ③ 住環境		講義・演習	1	通年	三浦 啓・村上 智実
授業の目標	1. 住まいの役割を理解する 2. 家族・人と生活空間のかかわりについて理解し、住要求の変化に対応する住まいが求められていることを理解する 3. バリアフリー、ユニバーサルデザインの社会性について 4. 住環境について学ぶ 5. 福祉用具について知識と使用方法を学ぶ				
授業の概要	1. 住環境の基礎的事項の習得 2. 住居における、安全に暮らすための工夫や空間 3. 施設の見学 4. 「生活支援技術 I」第 4 章第 1 節から第 3 節 (シラバス 1 2 ~ 1 5 回)				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	住まいの役割と機能			
	2	生活空間			
	3	快適な室内環境			
	4	安全に暮らすための生活環境			
	5	居住環境のアセスメント			
	6	住まいの場における工夫・留意点			
	7	高齢者・障がい者の住まい			
	8	集団生活の場における工夫・留意点			
	9	居住環境の整備における多職種との連携			
	10	施設見学			
	11	〃			
	12	住環境について学ぶ①			
	13	福祉用具について知識と使用方法を学ぶ①			
	14	住環境について学ぶ② (実技)			
15	福祉用具について知識と使用方法を学ぶ② (実技)				
評価方法	授業態度、出席数、レポート				
テキスト	最新第 2 版・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I (中央法規)				
参考文献					
留意事項	内容が変更になる場合があります				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術Ⅱ-②		演習	2	通年	伊東 利恵
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得できる。</li> <li>・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の応用を習得する。</li> <li>・介護実践における安全を管理するための応用を含めた知識・技術を習得する。</li> <li>・実践の根拠に基づいて、説明できる能力を身につけ、本人の主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。</li> <li>・根拠を明確にし、多様な利用者の状態像に適した生活支援技術の技法を学ぶ。</li> <li>・各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ	回	学習内容・テーマ	
	1	移動・移乗の介護（基礎復習）	17	実習後の振り返り	
	2	移動・移乗の介護（基礎復習）	18	移乗介助（ストレッチャー）	
	3	移動・移乗の介護（全介助）	19	差し込み便器を用いた排泄介助①	
	4	福祉用具活用の移動移乗の介護（全介助）① スライディングボード	20	差し込み便器を用いた排泄介助②	
	5	福祉用具活用の移動移乗の介護（全介助）② リフト	21	口腔ケアの介助（義歯装着・ブラッシング）	
	6	衣服の着脱介助（全介助）前開き	22	おむつの特徴	
	7	衣服の着脱介助（全介助）被り	23	事例問題（演習）	
	8	排泄の介助（おむつ交換）	24	事例問題（演習）	
	9	排泄の介助（おむつ交換）	25	事例問題（演習）	
	10	食事の介助（一部介助～全介助）	26	事例問題（演習）	
	11	口腔ケア介助	27	事例問題（演習）介護ロボット	
	12	入浴の介助（洗髪・洗身・整髪）	28	事例問題（演習）介護ロボット	
	13	清潔保持の介助（手浴・足浴）	29	総まとめ	
	14	身じたくの介護（洗面・ひげそり・整髪）	30	総まとめ	
	15	根拠含めた総演習	31	筆記テスト	
	16	根拠含めた総演習	32	実技テスト	
評価方法	出席状況、授業態度、レポート、テスト等を総合的に評価します。				
テキスト	最新 第2版 介護福祉士養成講座 生活支援技術6・7（中央法規）				
参考文献					
留意事項	演習は実習着を着用してください。必要時マスクを着用しましょう。演習時、筆記用具を持参すること。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
生活支援技術Ⅲ		講義・演習	1	前期	煙山雅彦・高野幸子・佐久間貴史
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得する</li> <li>・障害のある人の周囲の環境を配慮する介護の視点を習得する</li> <li>・知的障害、発達障害、高次脳機能障害の最新の知見を紹介しながら、それぞれの障害の特性を理解し、その障害の特性に合わせた支援方法を理解することを目的とする。</li> <li>・難聴者、補聴器装用者とのコミュニケーションの仕方。補聴器の実習を通して、補聴器の装用の仕方や電池交換などの操作性、補聴器の聞こえ方を確認していただきます。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑似体験、グループ演習などにより、さまざまな障害をもつ人の理解を深める。</li> <li>・様々な機能に障害を持つ方々への自立支援や介助時の配慮点を学び、具体的な支援の方法とは何かを探る。</li> <li>・講義で紹介した知識の理解を深めるため、映像等を使いながら、具体的な支援の方法や支援の視点や考え方を知る。</li> <li>・聞こえと難聴について、補聴器を購入するまでの流れをパワーポイントで説明。補聴器の取り扱いの実習。過去問題の解説。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ		備考	
	1	オリエンテーション (長谷)			
	2	知的障害への支援技術 (高野)			
	3	発達障害者への支援技術① (高野)			
	4	発達障害者への支援技術② (高野)			
	5	高次脳機能障害への支援技術 (高野)			
	6	合理的配慮について、まとめ (高野)			
	7	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは (煙山)			
	8	肢体不自由に応じた介護 (煙山)			
	9	視覚障害に応じた介護 (煙山)			
	10	重症心身障害に応じた介護① (煙山)			
	11	重症心身障害に応じた介護② (煙山)			
	12	運動機能障害に応じた介護 (煙山)		6回の授業終了後に試験あり (煙山)	
	13	聴覚・言語障害、発達障害の人の支援①		鶴野支援学校 校外学習	
	14	聴覚・言語障害、発達障害の人の支援②		鶴野支援学校 校外学習	
15	聴覚障がいと補聴器について (佐久間)				
評価方法	記述試験、出席状況、授業態度、レポート等で総合的に評価する				
テキスト	生活支援技術Ⅲ (中央法規出版) リオネット補聴器カタログ				
参考文献					
留意事項	グループワークは主体的に行うこと 時期、内容変更の可能性あり				

※実務経験のある教員

煙山 (介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉主事/障がい者支援施設勤務)

高野 (幼稚園教諭二級、保育士、知的障害援助専門員、公認心理士/障がい者支援施設勤務)

佐久間 (認定補聴器技能者/補聴器センター勤務)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護過程Ⅱ		演習	1	前期	伊東 利恵
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種協働・関係機関におけるチームアプローチについて学び、ケアプランと介護過程の違いを理解することができる。</li> <li>・事例を通して、利用者のさまざまな生活と介護過程展開の実際について理解することができる。</li> <li>・介護福祉士として、豊かな感性をみがき、人とのかかわりを大切にすることの重要性を理解することができる。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を用いたグループによる立案、討議、発表等を実施し、介護過程の展開の意義を理解する。</li> <li>・グループ討議を主とした形式で、他者批判せずに協調性を養う。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション			
	2	介護過程の実践的展開演習Ⅰ－①			
	3	介護過程の実践的展開演習Ⅰ－②			
	4	介護過程の実践的展開演習Ⅰ－③			
	5	介護過程の実践的展開演習Ⅰ－④			
	6	発表			
	7	発表			
	8	介護過程とケアマネジメントの関係性 ケアマネジメントの全体像			
	9	ケアプランと個別援助計画の関係性			
	10	チームとして介護過程を展開する意義・ケアカンファレンスの意義			
	11	チームアプローチの意義 チームにおける介護福祉職の役割			
	12	チームアプローチの実際			
	13	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開			
	14	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開①			
15	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開②				
評価方法	出席状況、授業態度、演習の積極的発言参加状況等総合的に評価します。				
テキスト	最新介護福祉士養成講座 介護過程 中央法規				
参考文献					
留意事項	グループワークでは、人の意見を批判するような発言は慎み、受容的な態度で進めていきましょう				

※実務経験のある教員（介護福祉士、介護支援専門員／老人福祉施設勤務経験）

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
介護過程Ⅲ	演習	1	前期	伊東利恵・中社佳子・長谷由香
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事例研究の意義、方法などを理解し、実践力を養うことができる。</li> <li>・介護過程の一連の流れを事例を通して理解することができる。</li> <li>・個々に合わせた介護とその根拠を明確にすることができる。</li> </ul>			
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章表現の方法を理解し、報告書作成に取り組む。</li> <li>・これまでの介護過程の授業の集大成として、介護過程の展開を文章化し、報告書としてまとめる。</li> </ul>			
授業計画	回	学習内容・テーマ		
	1	事例研究の進め方		
	2	事例研究の進め方		
	3	論文の取り組み方		
	4	文章表現について		
	5	文章表現について		
	6	実習Ⅱ 実習報告書作成		
	7	実習Ⅱ 実習報告書作成		
	8	実習Ⅱ 実習報告書作成		
	9	実習Ⅱ 実習報告書作成		
	10	実習Ⅱ 実習報告書作成		
	11	実習Ⅱ 実習報告書作成		
	12	実習Ⅱ 実習報告書作成		
	13	実習Ⅱ 実習報告書作成		
	14	実習Ⅱ 実習報告書発表		
15	実習Ⅱ 実習報告書発表			
評価方法	出席状況、授業態度、報告書完成度など総合的に評価します。			
テキスト	最新介護福祉士養成講座 介護過程 中央法規			
参考文献	最新介護福祉全書 介護総合演習 メジカルフレンド社			
留意事項				

※実務経験のある教員 伊東 (介護福祉士、介護支援専門員／老人福祉施設勤務経験)  
 中社 (介護福祉士、介護支援専門員／老人福祉施設勤務経験)  
 長谷 (看護師／病院勤務経験)

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
介護実習指導Ⅱ		演習	1	前期	伊東 利恵
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習Ⅰでの学びを生かし、他科目との統合化を行い、実習中の出来事や介護過程の展開を振り返り、介護観を確立できる。</li> <li>・実習先の取り組みを情報交換し、それぞれのやり方や考え方に興味を示し検討するなかで、柔軟に受け入れる姿勢を持ち、なぜそうするのかの科学的な根拠を学ぶことができる。</li> <li>・実習体験を通して、多職種協働の視点から、個々の生活支援の課題について多面的な視点で考え、介護福祉士、また、協働する専門職の専門性の理解ができる。</li> </ul>				
授業の概要	<p>当科目では、①介護実習の指導 ②他科目での学びの統合化 ③多職種協働の意味と重要性の意識化 ④学習到達状況の把握と個別指導 ⑤養成教育全体の総まとめを目的として、450時間の介護実習の全体像を踏まえ、個別的な生活支援が介護過程に基づいた専門的・計画的なものであることの理解を深めるため、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習を展開する。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	実習進度、要項について			
	2	実習のすすめ方（オリエンテーションについて）・用紙説明			
	3	事前準備①日誌指導			
	4	事前準備②目標指導			
	5	事前準備③記録指導			
	6	事前準備④カンファレンスについて			
	7	実習前実技テスト			
	8	事前準備⑤実習へ向けて			
	9	事後指導①記録			
	10	事後指導②記録			
	11	事後指導③技術			
	12	実習報告会（5週間）			
	13	実習報告会ディスカッション：GW			
	14	介護福祉士としての倫理・専門性の理解、多職種の専門性・連携			
15	介護福祉士としての倫理・専門性の理解、多職種の専門性・連携、まとめ				
評価方法	出席状況、授業態度、報告書内容等 総合的に評価します。				
テキスト	介護総合演習（中央法規） 実習のしおり				
参考文献					
留意事項	内容が変更になる場合があります				

科目名	授業形態	単位	開講時期	担当者
介護実習Ⅱ	実習	5	通年	伊東利恵・中社佳子・長谷由香
授業の目標	<p>【5週間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一連の介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立の支援を実践的に学び、チームの一員として介護を遂行することができる。</li> <li>チームケアや多職種連携を体験的に学び、介護福祉士の専門性を理解できる。</li> <li>今までの実習を基礎として自己を客観視し、今後の課題と方向性を追求できる。</li> </ul>			
授業の概要	<p>①対象者の地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、様々な場において対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得すること。</p> <p>②本人の望む生活の実現に向けて、多職種連携やチームケアを体験的に学び、介護福祉士としての役割を理解するとともに、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践する能力を養うこと。</p>			
授業計画	<p style="text-align: center;">学習内容・テーマ</p> <p>実習先：【5週間】～介護老人保健施設、介護老人福祉施設、障害者支援施設 介護過程の展開、生活支援技術の実践、チームケア・多職種連携の体験</p> <p>※適時、実習先巡回、およびカンファレンスに参加し、指導アドバイスをを行う。</p>			
評価方法	<p>実習施設評価表に基づく評価、学校評価 実習態度、記録など総合的に評価します</p>			
テキスト	<p>介護総合演習（中央法規）</p>			
参考文献				
留意事項				



科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
発達と老化の理解 I		講義	2	前期	長谷 由香
授業の目標	人間の成長と発達の過程における、身体的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響を理解し、ディスカッション、グループワークなどを通して、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。老化により起こる心身機能の変化、日常生活に及ぼす影響やその対応について理解できると同時に、高齢者と健康について関連させ、疾病や生活上の留意点を理解し、観察力・実践力を身につけることを目指す。				
授業の概要	発達と老化の理解 I・II を通して、人間の成長・発達の基礎的知識と、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識に基づき、高齢者に多い疾病や身体の不調、日常生活での留意点等を学ぶ。また、高齢者に起こってくる心身機能の変化が、日常生活に及ぼしている影響を学び、その対応や健康な生活を考えていく。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション・高齢者の力			
	2	老化にともなう身体的・心理的・社会的変化と生活①			
	3	老化にともなう身体的・心理的・社会的変化と生活②			
	4	高齢者に多い疾患と生活①			
	5	高齢者に多い疾患と生活②			
	6	高齢者に多い疾患と生活③			
	7	高齢者に多い疾患と生活④			
	8	高齢者に多い疾患と生活⑤			
	9	高齢者に多い疾患と生活⑥			
	10	高齢者の健康と高齢者に多い症状・疾患の特徴			
	11	人間の発達段階と発達課題			
	12	身体的機能の成長と発達			
	13	老年期に多い疾病と生活 まとめ①			
	14	老年期に多い疾病と生活 まとめ②			
15	老年期に多い疾病と生活 まとめ③				
評価方法	筆記試験 60% 授業レポート 20% 授業態度 20%				
テキスト	発達と老化の理解 中央法規				
参考文献					
留意事項	実習へ向けての進度に合わせ、内容を変更する可能性があります。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
発達と老化の理解Ⅱ		講義	2	後期	長谷 由香
授業の目標	<p>介護実践に必要な知識として、この科目では誕生から死に至るまでの人間の成長と発達の過程における、身体的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>多職種協働の場で、介護福祉士として実践力を発揮することを目指し、福祉・介護の専門的な知識と技術を理解し、応用できるようになることを目標とする。</p>				
授業の概要	<p>実習での経験や自己の生活経験を振り返り、生活に密着した、実践に沿った学習を目指し、人間の成長・発達の基礎的知識の習得を目指す。また、高齢者理解のため、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関し、発達理論をもとに基礎的事項を解説し、それにより起こってくる日常生活での心身機能の変化を学んで行く。</p>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	子どもの成長・発達の基本的な特徴の理解①エリクソン・ピアジェの認知発達理論			
	2	子どもの成長・発達の基本的な特徴の理解②身体的な成長・発達、運動機能の発達			
	3	子どもの成長・発達の基本的な特徴の理解③特徴的な疾病や障害			
	4	子どもの成長・発達の基本的な特徴の理解④言語発達			
	5	子どもの成長・発達の基本的な特徴の理解⑤社会性・愛着の発達			
	6	老年期の特徴と発達課題①			
	7	老年期の特徴と発達課題②			
	8	老化に伴う身体的・心理的・社会的変化と生活①			
	9	老化に伴う身体的・心理的・社会的変化と生活②			
	10	国家試験対策①			
	11	国家試験対策②			
	12	国家試験対策③			
	13	国家試験対策④			
	14	国家試験対策⑤			
15	まとめ・記述試験				
評価方法	筆記試験 80% 授業レポート 20%				
テキスト	発達と老化の理解 中央法規				
参考文献					
留意事項					

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
認知症の理解Ⅱ		講義	2	後期	本間 咲江
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人の世界を知り、認知症の方が心地よく生活する為の支援方法や視点を学ぶ。</li> <li>・認知症ケアにおける家族の心情を理解し、寄り添う方法を学ぶ。</li> <li>・家族へのレスパイトケア・エンパワメントについて理解し、地域や専門職との連携について学ぶ。</li> </ul>				
授業の概要	認知症の方への介護の基本視点を理解し、その視点を元に、個別支援とは、家族支援とは何かを学ぶ。 又、認知症の方を取り巻く様々な環境や、資源（家族を含む）を理解し、多職種連携の必要性や方法、介護福祉士（専門職）としての支援のあり方を学ぶ。				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	認知症介護についての振り返り（認知症介護の基本視点・原則等）			
	2	介護者支援について ・認知症の方の家族の心理過程と葛藤について ・家族の状況			
	3	家族への支援 ・レスパイトケア・家族へのエンパワメントについて（サービス利用で休養を図るには）			
	4	認知症の方と、その家族の想いについて考える			
	5	介護福祉職への支援について ・働きやすい環境とは ・離職防止対策（施設内研修プログラムとは）			
	6	ケアモデル実施について ・チームで認知症のケアモデルを実施するためには			
	7	ケアモデル実施について2 ・認知症ケアに求められる事とは			
	8	認知症の人の地域生活支援について・地域包括ケアシステムにおける認知症ケア			
	9	多職種連携と協働について 多職種連携と協働の基本的な考え方、必要要素とは			
	10	認知症ケアに携わる多職種について			
	11	認知症の方・介護家族の想いを考え、介護福祉士としての役割を理解する（GWにするか検討中）			
	12	認知症ケアとストレスについて（セルフエンパワメントとストレスケアについて）			
	13	認知症の方の虐待・権利擁護について			
	14	事例「共依存から虐待へ」			
15	テスト・まとめ				
評価方法	出席状況・授業態度・小レポート等				
テキスト	認知症の理解（中央法規出版）その他				
参考文献	認知症家族のこころに寄り添うケア、認知症ケアのストレス対処法（松本一生・中央法規出版） 認知症の知りたいことガイドブック、高齢者の認知症とうつ病（長谷川和夫・長谷川洋・中央法規出版）等				
留意事項	必要な資料等があれば事前に相談させていただきます。内容や順番は変更となる場合があります。				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
障害の理解Ⅱ		講義・演習	2	後期	金子 一也
授業の目標	障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいのある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。また、障害福祉をめぐる制度についても理解を深める。				
授業の概要	①障害の基礎的理解 ②障害のある人に対する介護や自立への支援 ③家族への支援 ④連携と協働 地域におけるサポート体制の確立(構築)に向けて ⑤障害福祉の制度や法律の理解				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	障害の概念と障害福祉の基本理念	障害の概念		
	2	障害の概念と障害福祉の基本理念	障害福祉の基本理念		
	3	障害の概念と障害福祉の基本理念	障害福祉の基本理念		
	4	障害者福祉に関連する制度	障害福祉に関連する制度		
	5	障害者福祉に関連する制度	障害福祉に関連する制度		
	6	障害者福祉に関連する制度	障害福祉と介護保険		
	7	連携と協働	地域のサポート体制		
	8	連携と協働	チームアプローチ		
	9	家族への支援	家族への支援とは		
	10	家族への支援	家族の介護力の評価と介護負担の軽減		
	11	国試対策	障害者関連法律の概要		
	12	国試対策	法的な障害者の定義		
	13	国試対策	障害福祉サービスの理解		
	14	国試対策	児童福祉法との関係 障害児サービス		
	15	国試対策	相談支援の概要と理解		
	16	テスト			
評価方法	授業への参加度・発言の積極性 テストを基にして行なう。				
テキスト	・新・介護福祉士養成講座13 障害の理解 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規				
参考文献	必要に応じてプリントを配布する				
留意事項	内容が変更になる場合があります				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こころとからだのしくみⅡ-①		講義・演習	2	前期	佐山 由起子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援の場面に応じた「こころとからだのしくみ」および心身の機能低下、疾病、障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を学ぶ。</li> <li>介護実践における安全への留意点、医療職などとの連携の在り方について学ぶ。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活場面（移動、身じたく、食事、入浴など）ごとに心身の機能低下、疾病、障害に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。</li> <li>生活をささえる介護実践の根拠とその関連性を学ぶ。</li> <li>介護ニーズの多様化に応えられる専門性の根拠となる基礎を学ぶ。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	オリエンテーション 他科目との関連性・生活支援にどう生かされるのかを学ぶ。			
	2	移動に関連したこころとからだのしくみ①			
	3	移動に関連したこころとからだのしくみ②			
	4	移動に関連したこころとからだのしくみ③			
	5	移動に関連したこころとからだのしくみ④			確認テスト
	6	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①			
	7	身じたくに関連したこころとからだのしくみ②			確認テスト
	8	食事に関連したこころとからだのしくみ①			
	9	食事に関連したこころとからだのしくみ②			
	10	食事に関連したこころとからだのしくみ③			
	11	食事に関連したこころとからだのしくみ④			確認テスト
	12	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①			
	13	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ②			
	14	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ③			確認テスト
	15	定期試験			
16	まとめ				
評価方法	試験（筆記） 受講態度 レポート				
テキスト	介護福祉養成講座「こころとからだのしくみ」中央法規出版 「医学一般」メヂカルフレンド社				
参考文献	「摂食・嚥下障害の評価方法と食事療法」「からだの話」学研 「国家試験問題解説集」「根拠からわかる介護技術の基本」新聞など				
留意事項	講義計画内容は一部変更の可能性がある。 随時演習・確認テスト				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者
こころとからだのしくみⅡ-②		演習	2	後期	佐山 由起子
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援の場面に応じた「こころとからだのしくみ」および心身の機能低下、疾病、障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を学ぶ。</li> <li>介護実践における安全への留意点、医療職などとの連携の在り方について学ぶ。</li> </ul>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活場面（排泄・睡眠・終末段階など）ごとに心身の機能低下、疾病、障害に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントについて学ぶ。</li> <li>生活をささえる介護実践の根拠とその関連性を学ぶ。</li> <li>介護ニーズの多様化に応えられる専門性の根拠となる基礎を学ぶ。</li> </ul>				
授業計画	回	学習内容・テーマ			
	1	排泄に関連したこころとからだのしくみ①			
	2	排泄に関連したこころとからだのしくみ②			
	3	排泄に関連したこころとからだのしくみ③			確認テスト
	4	睡眠に関連したこころとからだのしくみ①			
	5	睡眠に関連したこころとからだのしくみ②			
	6	睡眠に関連したこころとからだのしくみ③			確認テスト
	7	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①			
	8	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ②			
	9	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③			
	10	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ④			
	11	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑤			確認テスト
	12	疾患・障害に関連したこころとからだのしくみ（事例等を通しての関連学習など）①			
	13	疾患・障害に関連したこころとからだのしくみ（事例等を通しての関連学習など）②			
	14	疾患・障害に関連したこころとからだのしくみ（事例等を通しての関連学習など）③			
	15	定期試験			
16	後期まとめ				
評価方法	試験（筆記） 受講態度 レポート				
テキスト	介護福祉養成講座「こころとからだのしくみ」中央法規出版 「医学一般」メヂカルフレンド社				
参考文献	「なぜ？どうして障害と介護」メディクメディア「根拠からわかる介護技術の基本」 「からだの話」学研 「人体のはなし」秀和システム 新聞など				
留意事項	講義計画内容は一部変更の可能性がある。 随時演習・確認テスト				

科目名		授業形態	単位	開講時期	担当者	
医療的ケア演習		演習	/	通年	阿部 みつゑ 脇本 めぐみ 長谷 由香	
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する(安全管理体制の確保、観察判断、実施準備、ケアの実施、結果確認報告、片付けがしっかり行うことができる)</li> </ul>					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たんの吸引をシミュレータを用いて、効果的に演習でき一人で実施できる</li> <li>・経管栄養をシミュレータを用いて、効果的に演習でき一人で実施できる</li> <li>・救急蘇生法をシミュレータを用いて演習できる</li> </ul>					
授業計画	回	学習内容・テーマ		回	学習内容・テーマ	
	1	たんの吸引(口腔内) 1人5回以上		16	経管栄養(胃・腸ろう) 1人5回以上	
	2	たんの吸引(口腔内) 1人5回以上		17	経管栄養(胃・腸ろう) 1人5回以上	
	3	たんの吸引(口腔内) 1人5回以上		18	経管栄養(胃・腸ろう) 1人5回以上	
	4	たんの吸引(口腔内) 1人5回以上		19	経管栄養(胃・腸ろう) 1人5回以上	
	5	たんの吸引(口腔内) 1人5回以上		20	経管栄養(胃・腸ろう) 1人5回以上	
	6	たんの吸引(鼻腔内) 1人5回以上		21	経管栄養(経鼻) 1人5回以上	
	7	たんの吸引(鼻腔内) 1人5回以上		22	経管栄養(経鼻) 1人5回以上	
	8	たんの吸引(鼻腔内) 1人5回以上		23	経管栄養(経鼻) 1人5回以上	
	9	たんの吸引(鼻腔内) 1人5回以上		24	経管栄養(経鼻) 1人5回以上	
	10	たんの吸引(鼻腔内) 1人5回以上		25	経管栄養(経鼻) 1人5回以上	
	11	たんの吸引(カニューレ) 1人5回以上		26	救急蘇生法 1人1回以上	
	12	たんの吸引(カニューレ) 1人5回以上		27	救急蘇生法 1人1回以上	
	13	たんの吸引(カニューレ) 1人5回以上		28		
	14	たんの吸引(カニューレ) 1人5回以上		29		
15	たんの吸引(カニューレ) 1人5回以上		30			
評価方法	演習態度 各演習評価					
テキスト	「医療的ケア」中央法規 DVD					
参考文献	介護職員によるたん吸引等の研修テキスト					
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技術を確実なものにするため反復練習をする</li> <li>・学生の進捗状況に合わせた演習グループとする</li> </ul>					

※実務経験のある教員

阿部 (看護師/病院勤務経験)

脇本 (看護師/病院勤務)

長谷 (看護師/病院勤務経験)